

CHOFU

石油暖房機
〔密閉式石油ストーブ〕

取扱説明書 (保証書付)

型名

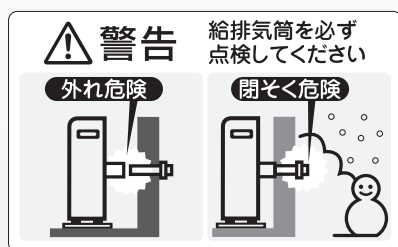
SUNpot FF-5211TL A1

SUNpot FF-4211TL A1・FF-4211TL(U) A1

SUNpot FF-3511TL A1

SUNpot FFR-5511BL A1

SUNpot FFR-4511BL A1



お客さまご自身による工事は危険です。
据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
(ストーブを移設させる場合も同じです。)

このたびは長府製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後は大切に保管し、おわかりにならないことや、不具合が生じたときにお役立てください。
- 保証書は販売店からお受け取りになる際に、必要事項が記入されていることを必ず確認してください。
- 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

上手に使って もっと便利に!

タイマー運転(23~25ページ)

(FF-4211TL(U)除く)

【タイマー1】

いつものお目覚めの時刻にあらかじめお部屋を暖めておきたいときにご使用ください。

【タイマー2】

来客時など任意の時刻にお部屋を暖めておきたいときにご使用ください。万が一の場合に備えて、1時間後に消火する設定になっています。(操作により燃焼を継続させることができます。)

eco(エコ)運転(26~27ページ)

春先や秋口など微小燃焼を続けていても部屋の温度が上がりすぎてしまうときにご使用ください。

(タイマーとの組み合わせでお好みの時刻に点火することができます。)

もくじ

ご使用前に

特に注意していただきたいこと	2~8
使用する場所	8
各部のなまえ	9~13
● 外観図	9~10
● 操作部・表示部	11~13

準備

使用前の準備	14~15
● 燃料	14
● 給油	14
● 空気抜き	14
● 点火前の準備と確認	15

使用方法

使用方法	16~29
● 点火	16~17
● 火力調節	18~19
● 消火	20
● 使用上の注意	21
● 時刻合せ	22
● タイマー運転	23~25
● eco(エコ)運転	26~27
● 微小固定運転	28
● チャイルドロック	29
安全装置	30
その他の装置	31

点検・その他

日常の点検・手入れ	32~33
定期点検	34
設計上の標準使用期間について	35~36
故障・異常の見分け方と処置方法	37~41
部品交換のしかた	42
保管	42
仕様	43~47
配線図	48
アフターサービス	49
据付け・移設	50~53

保証書

保証書	巻末
-----	----

特に注意していただきたいこと

安全のために必ずお守りください

この取扱説明書には本機を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項が表示されています。

表示内容をよくご理解いただき、本文をお読みください。

●ここに示した事項は  警告、 注意に区分しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト（まんが）の横にあるマークは次のように表しています。



マーク

禁止



マーク

指示



マーク

注意

特に注意していただきたいこと つづき

警告(WARNING)

ガソリン厳禁

- ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。



ガソリン厳禁

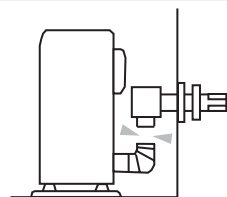


給排気筒(管、ホース)外れ危険

- 給排気筒(管、ホース)が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



禁止

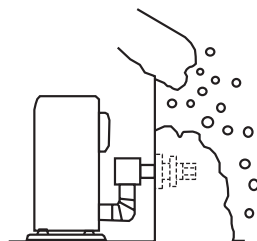


給排気筒トップ閉そく危険

- 給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



禁止

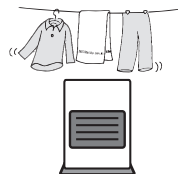


衣類の乾燥厳禁

- 衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



衣類乾燥厳禁



温風吹出口をふさがない

- 衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。



禁止

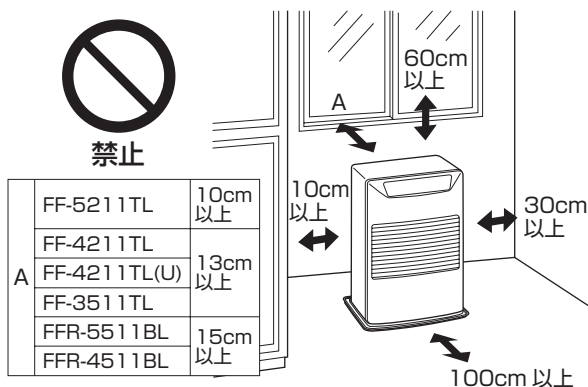


可燃物近接厳禁

- カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用したり、ストーブや排気管に近づけないでください。
火災の原因になります。
可燃物とは図に示す距離を確保してください。
詳細は標準据付け例(50～51ページ)を参照してください。



禁止



安全のために必ずお守りください

⚠ 警告(WARNING)

スプレー缶厳禁

- スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、温風のあたるところやストーブの上や前に(周囲に)放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。



禁止



定期点検の実施

- 定期的(2年に1回程度)に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。



必ず行う



ご自身での据付け・移設工事の厳禁

- お客さまご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。(ストーブを移設させる場合も同じです。)



禁止



改造・分解修理の禁止

- 改造して使用しないでください。また、ストーブや排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。
- 改造・分解して使用しないでください。改造・分解は、ストーブの安全性を損なうため、火災など思わぬ事故の原因になります。
- 故障、破損したら、使用しないでください。不完全な修理は危険です。



分解禁止



外付け装置による遠隔操作厳禁

- スマートフォン、IT機器を使ってストーブのスイッチを操作する外付け装置(※)は安全性を確認できないため、使用しないでください。※操作ボタン付近に設置し、インターネット通信等を介して、操作ボタンを切り切りできる装置。



禁止



特に注意していただきたいこと つづき

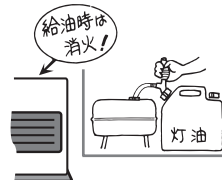
⚠ 注意(CAUTION)

給油時消火

- 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。



必ず行う

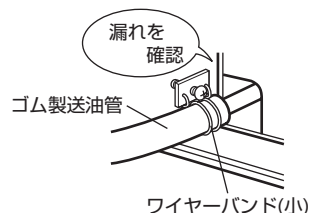


油漏れ確認

- 油タンク・ゴム製送油管・接続部・送油バルブおよびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上で使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。



必ず行う



ゴム製送油管の点検・交換

- ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などが無い場合でも2~3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。



必ず行う



異常・故障時使用禁止

- 油漏れやにおい、すすの発生、炎の色、エラーを繰り返すなど異常や故障と思われるときは使用しないでください。事故の原因になります。「故障・異常の見分け方と処置方法」(37~41ページ)に従って処置してください。



禁止



不良灯油使用禁止

- 変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油等)などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼のおそれがあります。



禁止



温風に直接あたらない

- 温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。



禁止



安全のために必ずお守りください

⚠ 注意(CAUTION)

高温部接触禁止

- 燃焼中や消火直後は、高温部(温風吹出口など)、排気筒(給排気筒トップ)に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。



接触禁止



指や異物を入れない

- 温風吹出口や空気取入口などに指や異物を入れないでください。
けがや火災のおそれがあります。



禁止



腰をかけたり物をのせない

- ストープの上ののったり、腰をかけたりしないでください。
ストーブの故障ややけどのおそれがあります。
- ストープの上に花瓶や水を入れたものなどを置かないでください。
水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



禁止

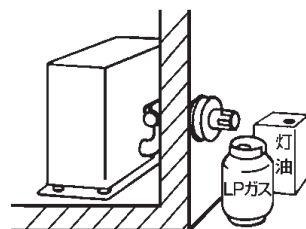


給排気筒付近の可燃物近接禁止

- 給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。
火災のおそれがあります。



禁止



特殊な場所での使用禁止

- ストープは居室の暖房用としてつくられたものですので、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。また、クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。
化学薬品などの影響により異常燃焼や故障の原因になります。



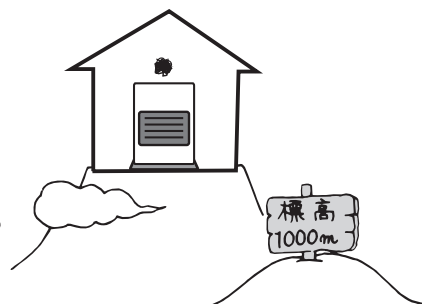
禁止



⚠ 注意(CAUTION)

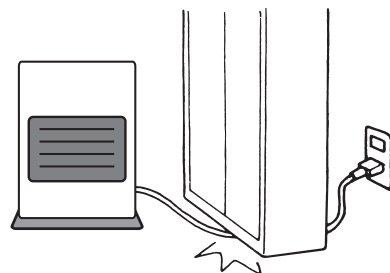
高地注意

- 標高1000m未満でご使用ください。
標高1000m～1500mで使用する場合は調整が必要です。
(詳しくは、52～53ページまたは工事説明書の
延長給排気方式・高地使用時の工事方法
を参照してください。)
そのまま使用しますと、空気不足となり、異常燃焼の原因になります。
- 標高1500mを超える場所では使用できません。



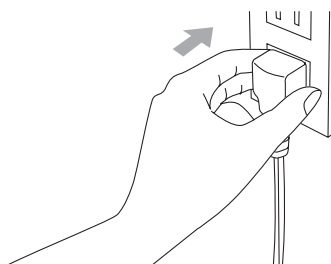
電源コードを傷めない

- 電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。



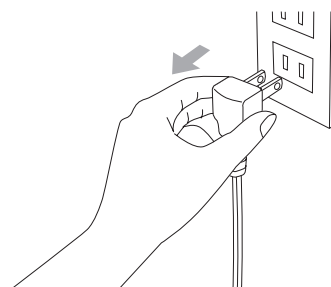
電源プラグは確実に差し込む

- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
(また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。)
火災の原因になります。
- めれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。



長期間使用しないときは電源プラグを抜く

- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。



安全のために必ずお守りください

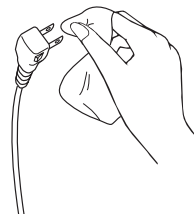
⚠ 注意(CAUTION)

電源プラグのお手入れをする

- ときどきは電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。（ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり）火災の原因になります。



必ず行う



お願い(NOTICE)

灯油の廃棄

- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

場所の選定は「据付け場所の選定及び標準据付け例」の項をお読みください。（50～51ページ参照）

効果的に使用するために

- 冷たい外気に接する窓ぎわや壁側に据付けると、冷気が暖められて対流しますので効果的です。
- ストーブの前方に障害物があると、部屋の温度にむらができる原因になります。

次の場所では使用しないでください。火災や予想しない事故の原因になります。

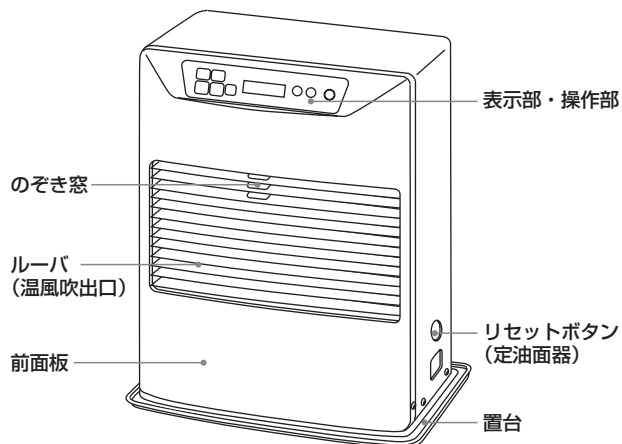
- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- 温室、飼育室など人のいない場所
- 標高1500mを超える高地

各部のなまえ

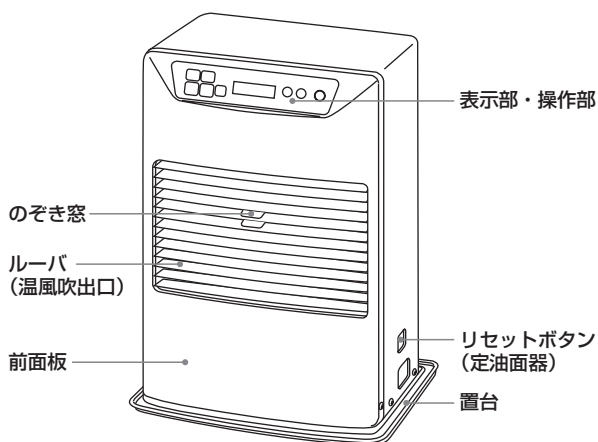
■ 外観図

【正面外観図】

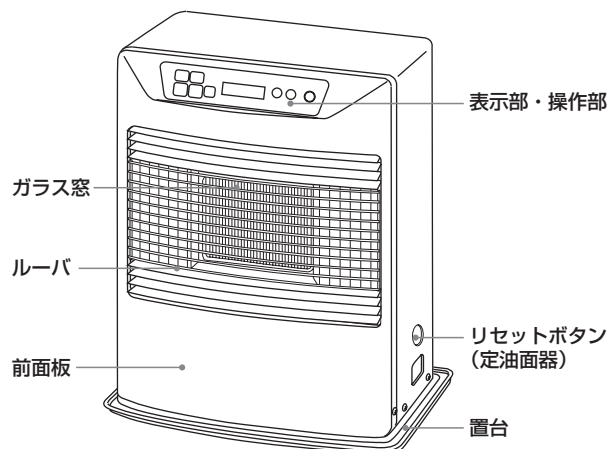
FF-5211TL



FF-4211TL・FF-3511TL



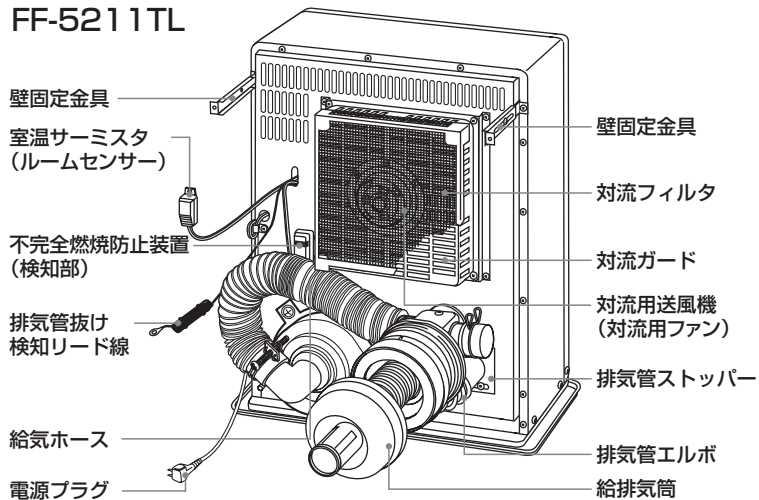
FFR-5511BL・FFR-4511BL



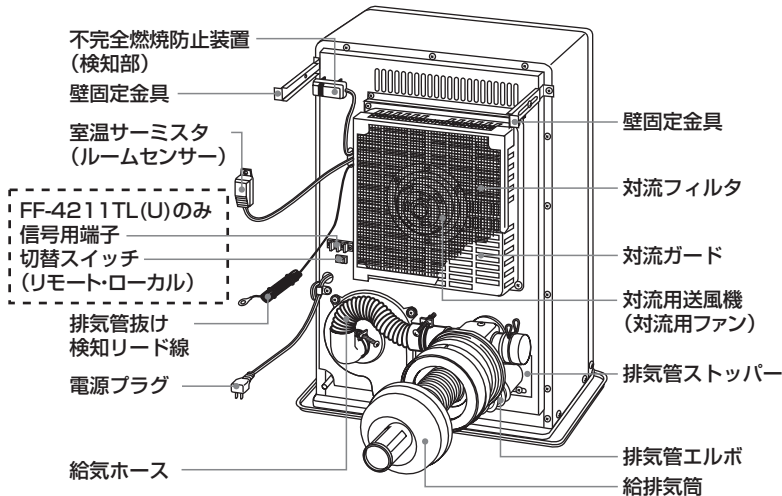
■ 外観図

【背面外観図】

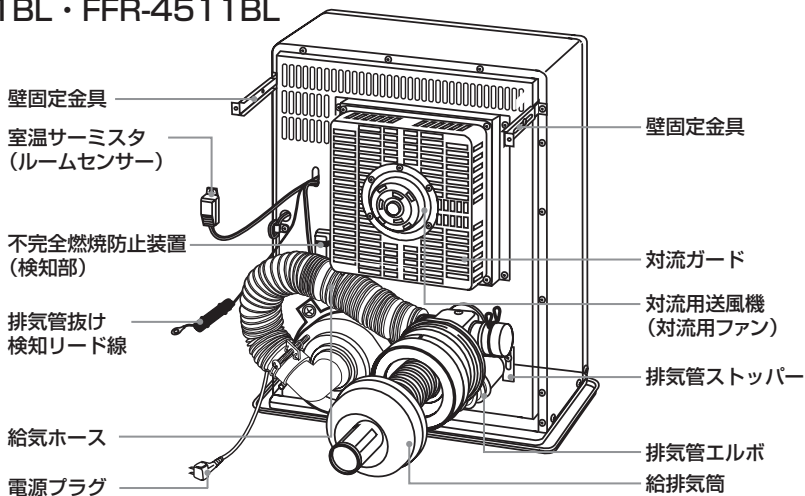
FF-5211TL



FF-4211TL・FF-3511TL



FFR-5511BL・FFR-4511BL

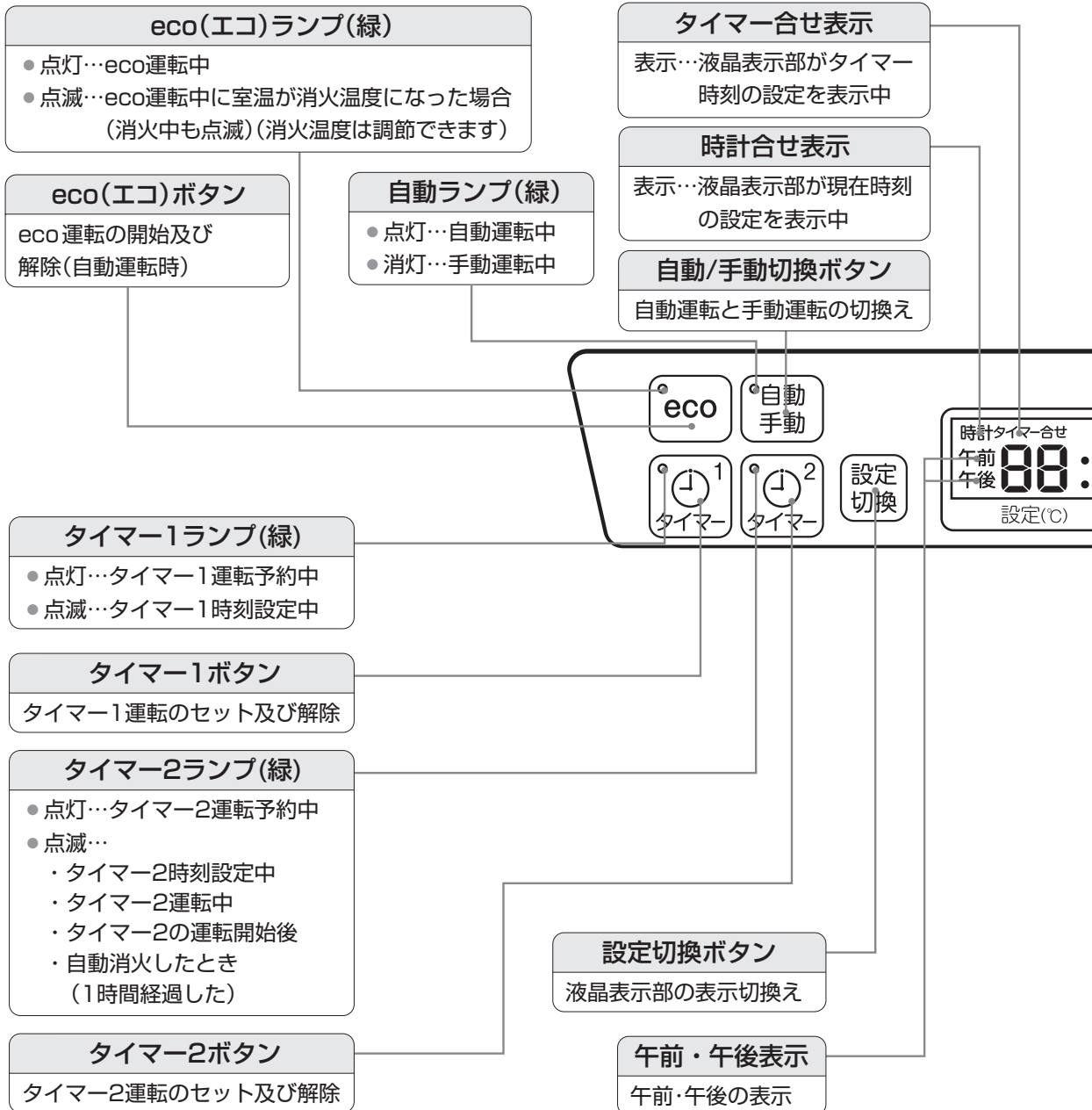


各部のなまえ つづき

操作部・表示部

- 操作ボタンを押すと受付音(「ピッ」音)を発して、受け付けたことをお知らせします。
(受付音を消す場合は、設定切換ボタン(FF-4211TL(U)はリセットボタン)を10秒以上押ししてください。「ピピピ」音を発して設定されます。もう一度操作すると「ピピピ」音を発して受付音が発するように設定されます。受付音を消音設定した場合でも、チェックモードが発生したときはブザー音が鳴ります。)

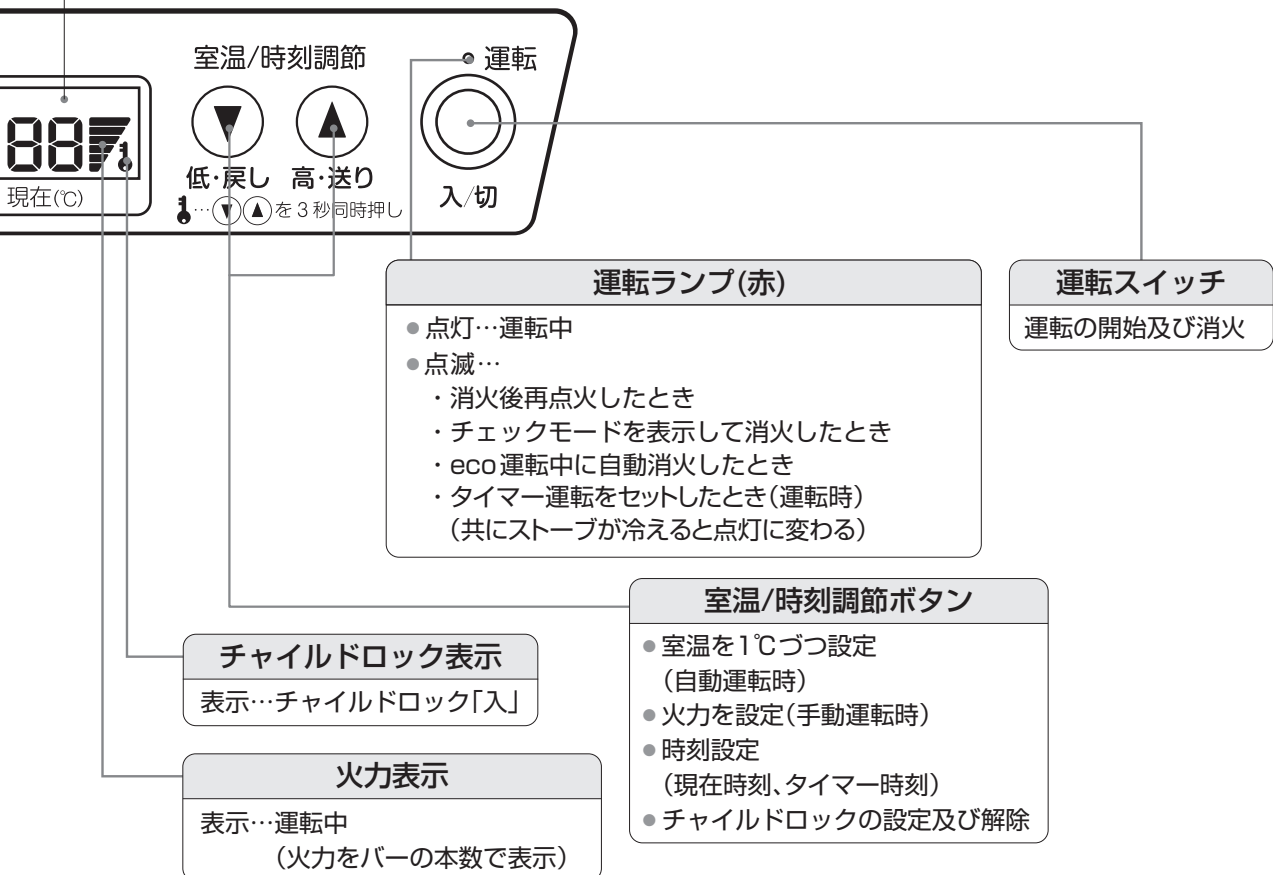
FF-5211TL・FF-4211TL・FF-3511TL・FFR-5511BL・FFR4511BL



- 操作できないボタンを押すと「ピピッ」音を発して、受け付けないことをお知らせします。
- バックライトが消灯しているときに操作ボタンを押すと、バックライトが一定時間点灯します。
- 運転スイッチを「入」にすると、表示部に白色のバックライト(照明)が点灯します。
- 設定により運転中のバックライトを消すことができます。(17ページ参照)

液晶表示部

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 初期表示 --- の点滅(運転スイッチ「切」の場合) <ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグをコンセントに差し込んだとき ・停電後、再通電したとき ・時刻設定していないとき ● 運転スイッチ「入」時 <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転…設定温度、現在温度を表示 ・手動運転…火力を「Lo」「P1」…「P4」「Hi」で表示
現在温度を表示 | <ul style="list-style-type: none"> ● 運転スイッチ「切」時…時計表示 ● 「時計合せ」「タイマー合せ」表示…設定時刻を表示 ● チェックモード表示 ● 点検時期お知らせ機能表示 E-00 ● タイマー2の運転開始後自動消火した表示 ● 何も表示しないとき <ul style="list-style-type: none"> ・停電中 ・省電力表示中 |
|--|---|



各部のなまえ つづき

FF-4211TL(U)

eco(エコ)ランプ(緑)

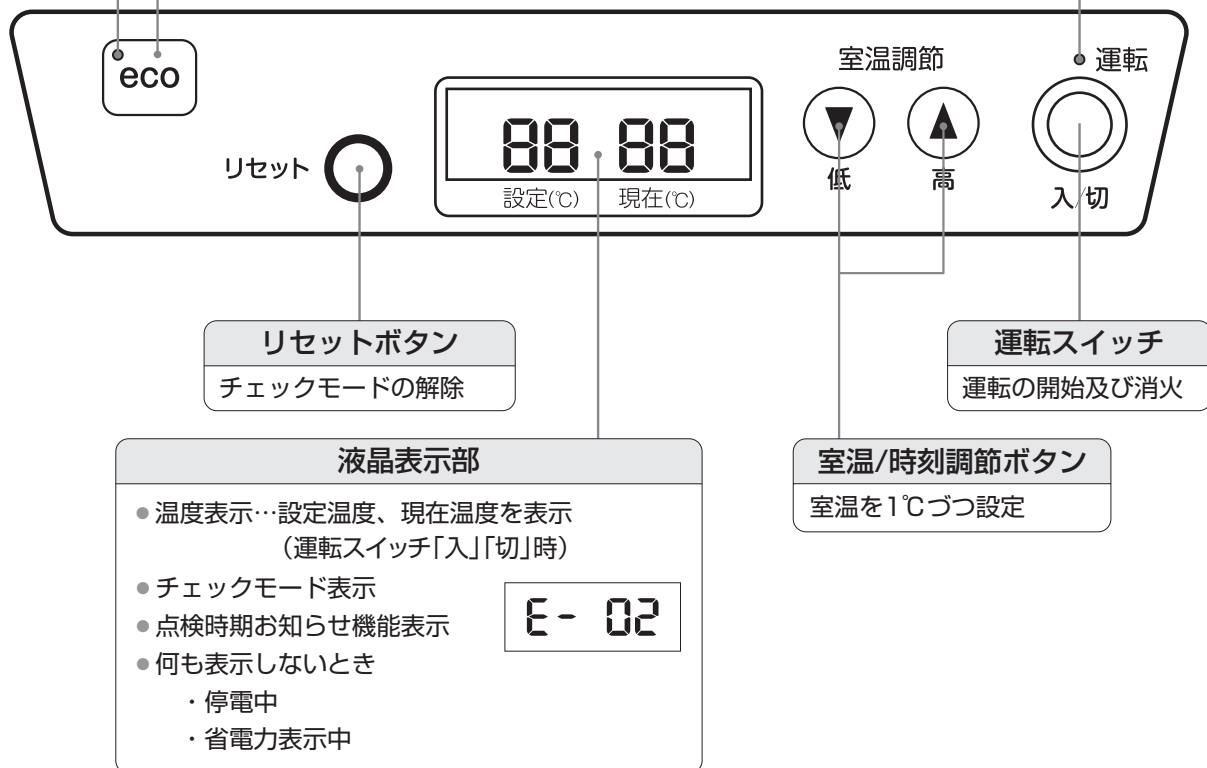
- 点灯…eco運転中
- 点滅…eco運転中に室温が消火温度になった場合
(消火中も点滅)(消火温度は調節できます)

eco(エコ)ボタン

eco運転の開始及び
解除(自動運転時)

運転ランプ(赤)

- 点灯…運転中
- 点滅…
 - ・消火後再点火したとき
 - ・eco運転中に自動消火したとき
(共にストーブが消えると点灯に変わる)



使用前の準備

燃料

- 燃料は、灯油(JIS 1号灯油)を必ず使用してください。
- 不良灯油(変質灯油、不純灯油)は、絶対に使用しないでください。
- 不良灯油(変質灯油、不純灯油)とは、
 - ・ 変質灯油：古い灯油(ひと夏持ち越した灯油)、日当たりがよい場所に保管した灯油、温度が高い場所に保管した灯油など。
 - ・ 不純灯油：灯油以外の油(ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など)がほんの少しでも混入した灯油。また、水やごみが混入した灯油。
- 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、ストーブの故障の原因になります。

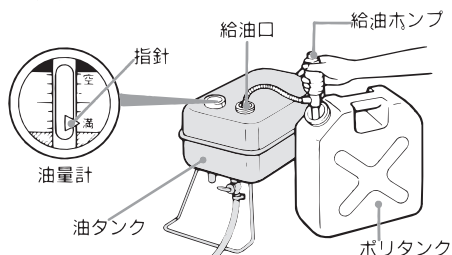
給油

給油はストーブを消火してから行ってください。

1 油タンクの送油バルブを閉める

2 油タンクの給油口ふたを外し、給油する

- 油量計の表示が「満」の印以上には絶対に入れないでください。



3 給油口ふたを確実に閉める

4 こぼれた灯油はよくふきとる



- 油タンクは空にしないでください。「空」まで燃焼させるとストーブより「ボン」と音がしたり、すすが発生し、故障の原因になります。
- 給油するときは、ごみなどが入らないよう注意してください。燃焼不良の原因になります。

空気抜き

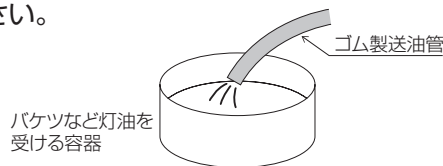
- 油タンクが空になってから給油しますと、送油経路内に空気が入り正常に送油できなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。

1 送油バルブを閉める

2 ストーブからゴム製送油管を外す

3 送油バルブを開けて、灯油が連続して流れることを確認する

- 灯油がこぼれないように容器を用意してください。



4 送油バルブを閉めてゴム製送油管をもとどおりに取り付ける

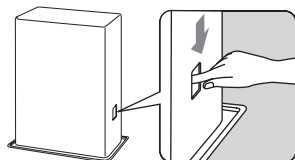
使用前の準備 つづき

■ 点火前の準備と確認

1 定油面器安全装置のセット

- 初めて使用するときやシーズン初めには、リセットボタンを押してください。据付けや、ストーブに強い振動をあたえたとき、定油面器の安全装置が作動して、油を流しません。点火操作後、油タンクに灯油が入っていても『E-03』『E-33』『E-05』『E-35』のチェックモード表示が出たときは、リセットボタンを押して、安全装置を解除してください。（『E-33』『E-35』はFF-4211TL(U)のみ表示されません。）

リセットボタンを軽く押し、
すぐ指を離す



- リセットボタンは燃焼中、むやみにさわらないでください。油漏れや赤火など異常燃焼の原因になります。

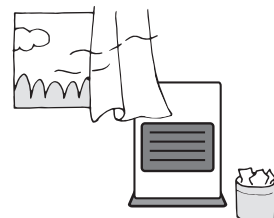
2 油漏れの確認

- ゴム製送油管やストーブの置台に油漏れがないか確認してください。万一、油漏れしている場合は送油バルブを閉め、必ずお買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。



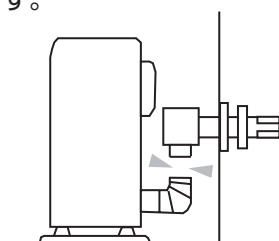
3 ストーブ周囲の確認

- ストーブの周囲及び給排気筒トップの周囲に引火物や可燃物がないか確認してください。火災や予想しない事故が発生するおそれがあります。



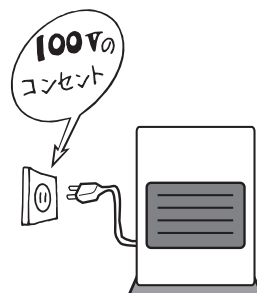
4 給気ホース・排気管の接続の確認

- 給気ホース・排気管が正しく接続されているか確認してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、大変危険です。



5 電源プラグの接続

- 電源プラグはコンセント(家庭用AC 100V)に差し込んであるか確認してください。また、電源コードを排気筒に巻きつけたり、排気筒などの高温部に触れないように注意してください。



使用方法

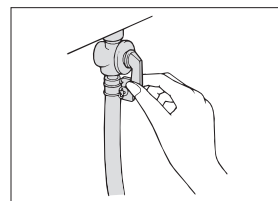
FF-4211TL(U)の使用方法については集中制御システム(SACS)の取扱説明書もご覧ください。

省電力表示について

運転スイッチが「切」でストーブが停止中、ボタンを押さない状態が2分以上続くと省電力表示となり、表示部の表示が全て消えます。この状態から操作する場合は、運転スイッチを除くいずれかのボタンを一度押して表示部を表示させた後、各操作を行ってください。

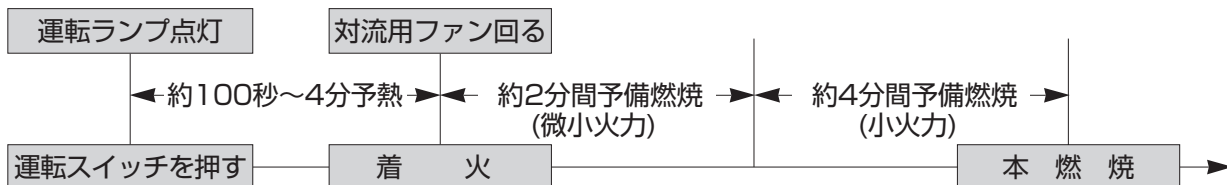
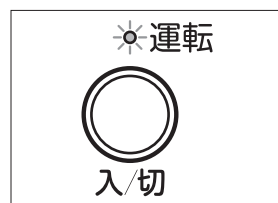
■ 点火

1 油タンクの送油バルブを開く



2 運転スイッチを押して、「入」にする

- 運転ランプと表示部のバックライトが点灯します。また、液晶表示部が現在時刻表示から温度表示に切り換ります。
- 約100秒～4分予熱後、着火します。(室温・外気温により着火までの時間は変動します。)
- 予熱後、対流用ファンが回り、約6分間予備燃焼を行います。



使用方法 つづき



- 点火の際には、のぞき窓より着火を確認してください。着火しない場合は、油タンクの送油バルブの開放や定油面器のリセットボタンを確認してください。
- 運転スイッチを「入」にし、液晶表示部に『E-19』のチェックモードが表示された場合は、排気管の接続が不十分であったり、排気管抜け検知リード線が正しく接続されていないためです。運転スイッチをいったん「切」にし、ストーブが停止したのち点検して確実に接続してから、運転スイッチを「入」にしてください。
- 始めてのご使用時や試運転時、および油切れ時などに送油経路の空気抜きが不十分な場合には、点火安全装置や燃焼制御装置が作動し、『E-03』『E-33』『E-05』『E-35』のチェックモードが表示されることがあります。この場合、運転スイッチを一度「切」にし、送油経路内の空気抜きを行ってください。(14ページ参照)
(『E-33』『E-35』はFF-4211TL(U)のみ表示されません。)

バックライト（照明）の消灯設定について

運転スイッチを「入」にしている間、バックライト(照明)を消灯させることができます。

以下の手順を参考に設定してください。

- ① 運転スイッチが「切」の状態ですべての設定ボタンと室温/時刻調節ボタン(室温調節ボタン)の「▼」を10秒以上同時に押してください。
(バックライトが消灯しているときや省電力表示中でも操作できます。)
- ② 液晶表示部の表示が「LE d」「on」へ切り替わります。(「LE d」「on」は2秒おきに交互に表示されます。)
- ③ 室温/時刻調節ボタン(室温調節ボタン)の「▲」で「on」、「▼」で「o FF」に切り替わります。
- ④ 設定したい内容を表示させて設定切換ボタン(リセットボタン)を押し、通常の表示に戻せば設定完了です。

※出荷時は「LE d」「on」に設定されています。

(注)何も操作しない状態が10秒間続くと、表示されている値で設定され、通常の表示に戻ります。この場合は最初からやり直して下さい。

LE d	on
設定(C) 現在(C)	設定(C) 現在(C)

表示例

	「LE d on」 (※)	「LE d o FF」
運転スイッチ「入」時のバックライト	「ON」	「OFF」

※出荷時設定

省電力表示機能の解除について

運転スイッチが「切」の場合でも時計表示をさせる(省電力表示機能の解除)ことができます。

以下の手順を参考に設定してください。(カッコ内は(U)タイプの場合)

- ① 運転スイッチが「切」の状態ですべての設定ボタンと室温/時刻調節ボタン(室温調節ボタン)の「▼」を10秒以上同時に押してください。
(バックライトが消灯しているときや省電力表示中でも操作できます。)
- ② 液晶表示部の表示が「Lc d」「o FF」へ切り替わります。(「Lc d」「o FF」は2秒おきに交互に表示されます。)
- ③ 室温/時刻調節ボタン(室温調節ボタン)の「▲」で「on」、「▼」で「o FF」に切り替わります。
- ④ 設定したい内容を表示させて設定切換ボタン(リセットボタン)を押し、通常の表示に戻せば設定完了です。

※出荷時は「Lc d」「o FF」に設定されています。

(注)何も操作しない状態が10秒間続くと、表示されている値で設定され、通常の表示に戻ります。この場合は最初からやり直して下さい。省電力表示機能を解除すると、タイマー待機時はバックライトが点灯したままとなります。消灯させたい場合は、省電力表示機能は解除しないでください。

Lc d	on
設定(C) 現在(C)	設定(C) 現在(C)

表示例

	「Lc d on」	「Lc d o FF」 (※)
運転スイッチ「切」時の時計表示	「ON」	「OFF」
運転スイッチ「切」時のバックライト	「OFF」	「OFF」
タイマー待機時のバックライト	「ON」	「OFF」

※出荷時設定

出荷時の設定について

出荷時ストーブは自動運転の「22」℃に設定してあります。

火力調節

自動運転

● 設定温度と現在温度に応じて、自動的に火力を変え運転します。

1 手動運転で自動ランプが消灯している場合、自動/手動切換ボタンを押して自動ランプを点灯させ、お好みの室温を設定する

- 設定温度表示部が火力表示「Lo」「P1」「P2」…から温度の数字に変わります。
- 自動ランプが点灯している場合は、室温/時刻調節ボタンの「▲」「▼」を押して、お好みの室温を設定してください。
- 室温の設定範囲は「8～32」℃です。
- 現在温度は「5～35」℃の範囲で表示されます。ただし、現在温度が4℃未満で「Lo」、36℃を超えると「Hi」の文字表示となります。
- 火力に合わせて火力表示(バー表示)も変化します。
- 設定温度の数字は室温のめやすです。設置条件によっては必ずしも室温と一致しません。
- 設定温度は一度設定すれば記憶されますので、運転スイッチを「切」にして消火したり手動運転に切換えても記憶していますが、停電の場合は解除され自動的に「22」℃に設定されます。



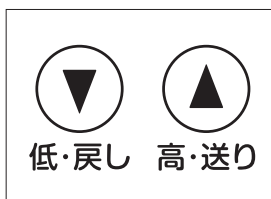
自動運転では消火は行わないため、比較的暖かい時期や設置条件によっては設定温度より室温が上がる場合があります。この場合は、eco(エコ)運転をご使用ください。燃烧・消火を繰り返し、室温を調節します。(26～27ページ参照)

手動運転

● 設定した火力で運転を続けます。室温による火力調節はしません。

1 自動運転で自動ランプが点灯している場合、自動/手動切換ボタンを押して自動ランプを消灯させ、お好みの火力を設定する

- 設定温度表示部が温度の数字から「Lo」「P1」「P2」…という火力表示に変わります。
- 自動ランプが消灯している場合は、室温/時刻調節ボタンの「▲」「▼」を押して、お好みの火力を設定してください。
- 火力は「Lo」が微小、「P1」～「P2」が小、「P3」～「P4」が中、「Hi」が大というめやすです。
- 設定した火力(記号)に合わせて火力表示(バー表示)も変化します。
- 出荷時の火力は「P3」に設定してあります。
- 火力は一度設定すれば記憶されますので、運転スイッチを「切」にして消火したり自動運転に切換えても記憶していますが、停電の場合は解除され自動的に自動運転の「22」℃に設定されます。



使用方法 つづき

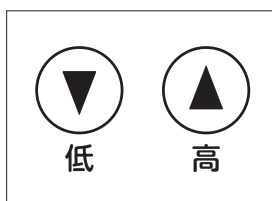
FF-4211TL(U)の場合

出荷時の設定について

出荷時ストーブは自動運転の「20」℃に設定してあります。

1 室温調節ボタンの「▲」「▼」を押して、好みの室温を設定する

- 室温の設定範囲は「Lo」「12～30」℃です。
- 現在温度は「5～40」℃の範囲で表示されます。ただし、現在温度が4℃未満で「Lo」、41℃を超えると「Hi」の文字表示となります。
- 設定温度の数字は室温のめやすです。設置条件によっては必ずしも室温と一致しません。
- 室温を「Lo」に設定すると、微小固定運転となります。(28ページ参照)
- 設定温度は一度設定すれば記憶されますので、運転スイッチを「切」にして消火したり手動運転に切替えても記憶していますが、停電の場合は解除され自動的に「20」℃に設定されます。



室温調節では消火は行わないため、比較的暖かい時期や設置条件によっては設定温度より室温が上がる場合があります。この場合は、eco(エコ)運転をご使用ください。燃焼・消火を繰り返し、室温を調節します。(26～27ページ参照)



- 燃焼中に炎がかたよったり、赤火が混ったり、また上下変動することがありますが、異常ではありません。
- ストーブの前面には温風をさまたげる障害物を置かないでください。障害物があると温風が回り込み、室温調節が正しく働かない場合があります。
- 燃焼中「カチカチ」音がすることがありますが、電磁ポンプの運転音で異常ではありません。
- 設定室温や火力を大きく切り替えると対流用ファンの音が大きくなる場合がありますが、ストーブの特性上のもので異常ではありません。
- 室温調節が正しく働かないときは、室温サーミスタ(ルームセンサー)を適当な場所に移動してください。
- 室温サーミスタ(ルームセンサー)は直接ストーブに取り付けしないでください。室温調節が正しく働かないだけでなくeco運転の場合、室温より高い温度で感知し、点火・消火を頻繁に繰り返して故障の原因になります。

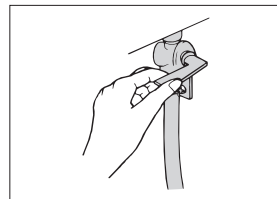
■消火

1 運転スイッチを再度押して、「切」にする

- 運転ランプが消灯し、10秒後バックライトが消灯します。
また、液晶表示部が温度・火力表示から現在時刻表示に切り換ります。
(FF-5211TL・FF-4211TL・FF-3511TL・FFR-5511BL・
FFR-4511BLの場合)



2 油タンクの送油バルブを閉じる



3 消火を確認する

- 対流用ファンはストーブが冷えるまでの約8分間回り続けます。



- 長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源プラグは対流用ファンが停止してから抜いてください。
- 電源プラグをコンセントから抜いて運転を停止しないでください。
ストーブが過熱し、故障の原因になります。
- お出かけになるときは、必ず運転スイッチを「切」にして消火してください。

使用方法 つづき

使用上の注意

高温部に注意

- ストープの温風吹出口は高温になりますので、やけどに注意してください。
- 特にお子さまをストーブに近づけないでください。保護ガード(関連部材)のご使用をおすすめします。
- 給排気筒トップや排気管は高温です。やけどに注意してください。



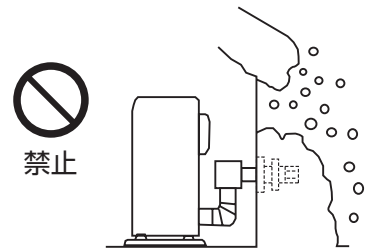
温風に直接あたらない

- 温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。特に体力のない病人、乳幼児、お年寄りには、まわりの人が注意してあげてください。



給排気筒トップ閉そく危険

- 給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



雷時の注意

- 雷が接近したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。激しい雷の影響でストーブが故障するおそれがあります。
- シーズンオフのように長期間使用しないときは電源プラグを抜いてください。また、シーズン始めに使用される場合は、使用前の準備(14~15ページ)や試運転(52~53ページ)の項を参照して確認および操作をしてください。
- ガラスには水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。ガラスが割れ危険です。
- ストープ前面付近は、温風が熱いので熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。変色や変形したりすることがあります。
- 給排気筒の先端から結露水がたれることがありますが、異常ではありません。排気管に結露水がたまった場合は、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。

時刻合せ

FF-4211TL(U)には時刻表示はありません。

- はじめて使用するときや停電後、表示が **--:--** になっている場合には、時刻合せを行ってください。

停止中でも運転中でも合せることができます。

1 「時計合せ」が表示されている場合、室温/時刻調節ボタンの「▲」「▼」を押して、現在時刻を設定する

- 「▲」ボタンを押すと時刻が順に進み、「▼」を押すと逆に進みます。
- ボタンを押し続けると早送りになります。
- ボタンを押して設定中は「時計合せ」表示が点滅します。
- 運転中は設定切換ボタンを1回押して、「時計合せ」を表示させてから設定してください。
- 10秒間操作がないと表示されている時刻で設定されます。
(「時計合せ」が消灯し、現在時刻表示になります。運転中の場合は、設定温度または火力と現在温度が表示されます。)

設定
切換

時計 合せ

▼ ▲
低・戻し 高・送り

使用方法 つづき

タイマー運転

タイマー時刻合せ

FF-4211TL(U)はタイマー運転できません。

- タイマー1、タイマー2は、違う時刻を設定できます。

タイマー1

- 寒い朝などおめざめ前にお好みの時刻に運転を開始します。

1 設定切換ボタンを2回押して、タイマー1ランプを点滅させる

- 液晶表示部がタイマー1合せ表示に切り替わります。
- 液晶表示部に「タイマー合せ」が表示します。

設定
切換



タイマー合せ

2 室温/時刻調節ボタンの「▲」「▼」を押す

- 「▲」ボタンを押すと時刻が順に進み、「▼」を押すと逆に進みます。
- 分は5分きざみで動きます。
- ボタンを押し続けると早送りになります。
- ボタンを押して設定中は「タイマー合せ」表示が点滅します。
- 10秒間操作がないと表示されている時刻で設定されます。
(「タイマー合せ」が消灯し、現在時刻表示になります。運転中の場合は、設定温度または火力と現在温度が表示されます。)



タイマー2

- 来客時など任意の時刻に運転を開始します。1時間後に消火する設定になっています。

1 設定切換ボタンを3回押して、タイマー2ランプを点滅させ、タイマー時刻を設定する

- 液晶表示部がタイマー2合せ表示に切り替わります。
- 液晶表示部に「タイマー合せ」が表示します。
- タイマー1と同様にタイマー2時刻を設定してください。

設定
切換



タイマー合せ



- 時刻合せをしていないと、設定切換ボタンを押してもタイマー時刻合せにできません。

■ タイマー運転

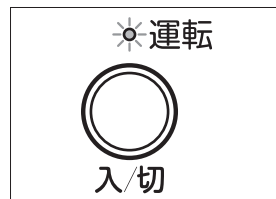
タイマー点火

FF-4211TL(U)はタイマー運転できません。

1 油タンクの送油バルブを開く

2 運転スイッチを押して、「入」にする

- 運転ランプが点灯します。
- 燃焼中にセットする場合、運転スイッチを「入」にする必要はありません。



3 タイマー1ボタンまたはタイマー2ボタンを押す

タイマー1

- タイマー時刻になると点火し、点火後は運転を継続します。
- タイマー1ボタンを押すと、タイマー1ランプが点灯します。
- 10秒間液晶表示部に「タイマー合せ」とタイマー時刻を表示し、その後バックライト(照明)が消灯します。(燃焼中にセットする場合、運転ランプが点滅し消火します。その後バックライトが消灯し、ストーブが冷えると運転ランプは点灯に変わります。)
- 「タイマー合せ」表示中はタイマー時刻を設定することができます。



タイマー合せ

タイマー2

- タイマー時刻になると点火し、点火後約1時間で自動消火します。
- タイマー2ボタンを押すと、タイマー2ランプが点灯します。
- 10秒間液晶表示部に「タイマー合せ」とタイマー時刻を表示し、その後バックライト(照明)が消灯します。(燃焼中にセットする場合、運転ランプが点滅し消火します。その後バックライトが消灯し、ストーブが冷えると運転ランプは点灯に変わります。)
- 「タイマー合せ」表示中はタイマー時刻を設定することができます。
- タイマー2は点火後約1時間で自動的に消火します。点火後、タイマー2ランプの点滅と共に消火までの時間(分)を1分ごとに現在温度表示部に点滅表示します。自動的に消火すると、運転ランプとタイマー2ランプの点滅と共に、液晶表示部に「00」が点滅表示します。(ストーブが冷えると運転ランプは点灯に変わります。)
- 点火後、タイマー2ボタンを押すと、タイマー2ランプが点滅から消灯に変わり、自動消火せずに運転を継続します。
- タイマー2は設定により点火後、運転を継続することができます。(25ページ参照)



4 お好みの運転を設定する

- 自動/手動運転・eco運転を設定することができます。

使用方法 つづき

■タイマー運転の解除

- 1 運転スイッチを再度押して、「切」にする
- 設定していたタイマーのタイマーランプが消灯します。



- タイマー時刻前に点火する場合は、再度設定しているタイマーボタンを押して、タイマーランプを消灯させてください。(設定温度または火力と現在温度が表示され、バックライトが点灯します。)
- タイマー2で自動消火した場合、運転ランプとタイマー2ランプが点滅と共に液晶表示部に『00』を点滅表示します。(ストーブが冷えると運転ランプは点灯に変わります。)再度運転する場合は、運転スイッチを一度「切」にして再度「入」にするかタイマー2ボタンを押してください。

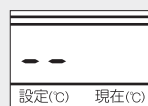


- 運転スイッチが「入」になっていないとタイマー運転を受け付けません。
- 時刻合せをしていないとタイマー運転はできません。先に時刻合せを行ってください。(22ページ参照)
- お好みの運転の設定はタイマーボタンを押す前にもできます。
- タイマー運転をする場合は、周囲に可燃物があったり、その他危険な状態のないことを確認してください。
- お出かけのときはタイマー運転をしないでください。予想しない事故が発生するおそれがあります。
- 停電したときや運転中にチェックモードが表示されたときは、タイマー運転は解除されます。

タイマー2運転の自動消火時間設定について

タイマー2運転の自動消火機能をなくすことができます。以下の手順を参考にして設定してください。

- ①運転スイッチが「切」の状態ですべてのタイマー2ボタンを3秒以上押してください。(バックライトが消灯しているときや省電力表示中でも操作できます。)
 - ②液晶表示部の表示が『60 of』へ切り換わります。
 - ③室温/時刻調節ボタンの「▲」で消火機能を使用しない「--」、 「▼」で消火機能を使用する「60 of」に切り換わります。
 - ④設定したい内容を表示させて設定切換ボタンを押し、通常表示に戻せば設定完了です。
- ※出荷時は「60 of」に設定されています。
(注)何も操作しない状態が10秒間続くと、表示されている値で設定され通常表示に戻ります。この場合は最初からやり直してください。



表示例

eco(エコ)運転(自動運転時)

- 比較的暖い時期など、設定温度より室温が上がりすぎるときにご使用ください。燃焼・消火を繰り返し、室温を調節します。(室温が任意の設定温度になるように調節します。)

1 ecoボタンを押す

- ecoランプが点灯します。
- 室温が設定温度と同じ又はそれ以上の状態が2分間続くと、運転ランプとecoランプが点滅となり、消火します。
(ストーブが冷えると運転ランプは点灯に変わりますが、ecoランプは点滅を継続します。)
- 再点火は室温が設定温度より2℃低くなったとき、ecoランプが点滅から点灯に変わり、点火します。
- eco運転は燃焼・消火を繰り返しますので、室温の変動が大きくなります。



消火・点火温度条件を変更することができます。(27ページ参照)

eco(エコ)運転の解除

1 ecoボタンを再度押す

- ecoランプが消灯します。

eco運転は微小固定運転にしますと自動的に解除されます。
(FF-4211TL(U)のみ)



- eco運転は、手動運転(FF-5211TL・FF-4211TL・FF-3511TL・FFR-551BL・FFR-4511BL)や設定温度表示部に『Lo』表示されている微小固定運転(FF-4211TL(U))では受け付けません。
- eco運転は消火・点火を繰り返すため、通常運転に比べ消費電力が大きくなる場合があります。
- eco運転では室温を下げることはできません。
- eco運転は小さな燃焼で室温を調節します。室温が上がらない場合はeco運転を解除してください。
- eco運転は一度セットすると記憶されます。運転スイッチを「切」にして消火しても解除されません。
- 停電したときは、eco運転は解除されます。

使用方法 つづき

eco運転時の消火・点火温度条件の調節について

eco運転時の消火・点火の温度条件を調節することができます。

以下の手順を参考にして設定してください。(カッコ内は(U)タイプの場合)

- ① 運転スイッチが「切」の状態でもecoボタンを3秒以上押してください。
(バックライトが消灯しているときや省電力表示中でも操作できます。)
 - ② 液晶表示部の表示が『EC*』(*は設定値)へ切り替わります。
 - ③ 『EC*』の状態から室温/時刻調節ボタン(室温調節ボタン)の「▲」「▼」を押すごとに、「0」↔「1」↔「2」と切り替わります。
 - ④ 設定したい内容を表示させて設定切換ボタン(リセットボタン)を押し、通常の表示に戻せば設定完了です。
- ※出荷時は「0」に設定されています。
(注)何も操作しない状態が10秒間続くと、表示されている値で設定され通常の表示に戻ります。この場合は、最初からやり直してください。

EC	2
設定(°C)	現在(°C)

表示例

	「0」 (※)	「1」	「2」
消火温度 (設定温度に対して)	±0°C	+1°C	+2°C
点火温度 (設定温度に対して)	-2°C	-1°C	±0°C

※出荷時設定

■ 微小固定運転

FF-4211TL(U)の場合

- 最小火力で燃焼し続けます。室温による火力調節はしません。

1 室温調節ボタンの「▼」を押し続ける

- 室温調節ボタンの「▼」を押し続けると『12』℃の次に『Lo』が表示されて微小固定運転に入ります。



■ 微小固定運転の解除

1 室温調節ボタンの「▲」を押して、お好みの室温を設定する



- 微小固定運転にすると、eco運転はできません。設定されていたeco運転は解除されます。
- 停電したときは、微小固定運転は解除されます。
- FF-5211TL・FF-4211TL・FF-3511TL・FFR-5511BL・FFR-4511BLで微小固定運転にする場合は、手動運転で火力を『Lo』に設定してください。(18ページ参照)

使用方法 つづき

チャイルドロックについて

お子様などによるいたずら操作の防止や、誤って運転スイッチを押しても点火しないようにしたいときに使用します。

チャイルドロック

FF-4211TL(U)にはチャイルドロックはありません。

- 子供などによるいたずらを防止します。

1 室温/時刻調節ボタンの「▲」「▼」を3秒以上同時に押す

- 「ピー」とブザー音が鳴り、「🔑」マークが表示します。
- 運転スイッチを「切」にすること以外の操作ができません。



チャイルドロックの解除

1 室温/時刻調節ボタンの「▲」「▼」を再度3秒以上同時に押す

- 「ピー」とブザー音が鳴り、「🔑」マークが消灯します。



- 停電したときや運転中にチェックモードが表示されたときは、チャイルドロックは解除されます。
- 室温や火力の設定などストーブの設定中は、チャイルドロックにすることはできません。
- チャイルドロックを設定中でも、いずれかのボタンを押すとバックライトは点灯します。

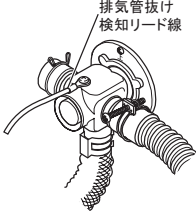
安全装置

● 異常が生じたとき、自動的に消火する装置です。

● 安全装置が作動した場合、運転スイッチを「切」にし、ストーブが冷えてから下記の処置をしてください。

安全装置のなまえ ● 作動の原因	チェックモード	処置の方法
対震自動消火装置 ● 地震(震度5程度以上)のとき ● 強い振動や衝撃を受けたとき	E- 02	ストーブの周囲や給気管・排気管の外れやゆるみ、油漏れなどの異常がないことを確認し再点火操作してください。 (FF-4211TL(U) はリセットボタンを押す)
停電安全装置 ● 停電したとき ● 電源プラグが抜けたとき	E- 00	通電後、再点火操作してください。
	FF-4211TL(U) の場合	停電時には運転スイッチを「切」にしてください。「入」にしていますと再通電後、自動的に点火しますので注意してください。
過熱防止装置 ● 対流フィルタや対流ガードにほこりがたまったり、対流フィルタや対流ガードがカーテンなどでおおわれたとき	E- 07	対流フィルタや対流ガードの掃除や障害物などの原因を取り除いてから再点火操作してください。(33ページ参照) (FF-4211TL(U) はリセットボタンを押す)
点火安全装置 ● 点火不良	E- 03 E- 33 ((E-33)はFF-4211TL(U)のみ表示しない)	次のことを確認し、再点火操作してください。 (FF-4211TL(U) はリセットボタンを押す) ● 油タンクの送油バルブが閉じられていないか。 ● ゴム製送油管に空気だまりがないか。(14、52ページ参照) ● 定油面器の安全装置が作動していないか。(15ページ参照) ● 再びチェックモードが表示される場合には、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
燃焼制御装置 ● 途中で火が消えたとき	E- 05 E- 35 ((E-35)はFF-4211TL(U)のみ表示しない)	次のことを確認し、再点火操作してください。 (FF-4211TL(U) はリセットボタンを押す) ● 排気管が外れていないか、他の燃焼機器の影響を受けていないか確認してください。(32、37ページ参照) ● 給排気筒トップの先端がふさがれていないか。(32ページ参照) ● 再びチェックモードが表示される場合には、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
不完全燃焼防止装置 ● 不完全燃焼になった排ガスが室内に漏れたとき	積算作動回数1~2回 E- 00 E- 60	次のことを確認し、再点火操作してください。 (FF-4211TL(U) はリセットボタンを押す) ● 排気管が外れていないか、他の燃焼機器の影響を受けていないか確認してください。(32、37ページ参照) ● 給排気筒トップの先端がふさがれていないか。(32ページ参照) ● 再びチェックモードが表示される場合には、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
【連続不完全燃焼通知機能】 ● 連続して不完全燃焼防止装置が作動したとき	積算作動回数3回 CC CC (点滅)	
【再点火防止機能】 ● 連続して不完全燃焼防止装置が作動したとき	積算作動回数4回 CC CC (点灯)	室内の換気を行い、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。「CC CC」が点灯するとストーブが使用できなくなります。

その他の装置

装置のなまえ ● 作動の原因	チェックモード	処 置 の 方 法
排気管抜け検知装置 ● 排気管接続部の外れ ● 排気管抜け検知リード線が外れたり断線したとき	E - 19	排気管や排気管抜け検知リード線を点検し、確実に接続してから再点火操作してください。 [FF-4211TL(U)はリセットボタンを押す] <div style="text-align: center;">  </div>

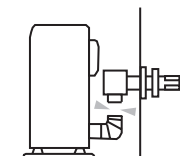
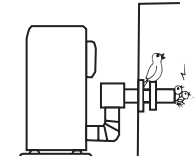


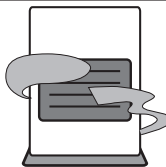
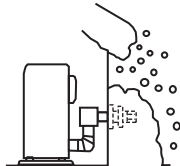
異常燃焼を長時間続けますとバーナ部などにカーボンが付着し、故障の原因となりますので、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。

日常の点検・手入れ

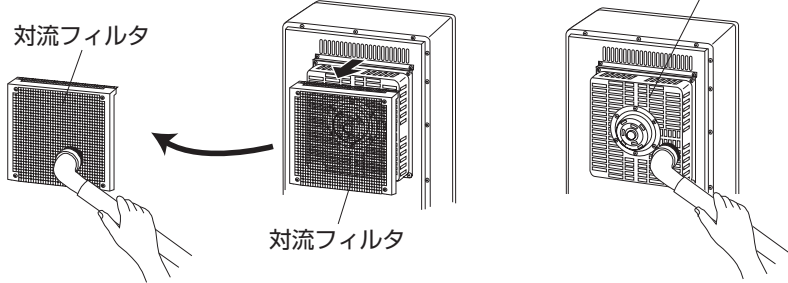
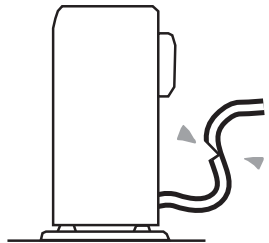

点検・手入れのときの注意

- 必ず運転スイッチを「切」にして、ストーブの運転を停止し、ストーブが冷えた状態で行ってください。

点検・手入れの必要項目、時期、方法

時期	点検・手入れ項目	方	法
シーズンはじめ	給気ホース 排気管	<ul style="list-style-type: none"> ● 給気ホース・排気管の接続箇所が外れていないか点検します。 ● 給気ホースが排気管にあたっていないか点検します。 	
	給排気筒トップ	<ul style="list-style-type: none"> ● 室外の給排気筒トップが鳥の巣やビニール袋などでふさがれていないか点検します。 	
使用ごと	油漏れ・油のたまり・油のにじみ	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴム製送油管や置台に油漏れ、油のたまり、油のにじみがないか点検します。 	
	周囲の可燃物・引火物	<ul style="list-style-type: none"> ● ストーブの上や周囲・給排気筒トップの周囲に可燃物、引火物がないか点検します。 	
	排ガスの漏れ	<ul style="list-style-type: none"> ● 排ガスのおいさ、目がチカチカしないか点検します。排ガスが漏れていますと危険です。 	
	給排気筒トップ	<ul style="list-style-type: none"> ● 給排気筒トップが雪や氷でふさがれていないか点検します。ふさがれていると異常燃焼することがあり危険です。 	

日常の点検・手入れ つづき

時期	点検・手入れ項目	方	法
週に1回以上	対流フィルタ 対流ガード ※FFR-5511BL FFR-4511BLには 対流フィルタが ありません。	<ul style="list-style-type: none"> ● ストープ背面の対流フィルタ、対流ガードに付いたほこりを掃除機などで取り除きます。 	
月に1回以上	ストーブ外観 安全のため、電源プラグをコンセントより抜いてから行ってください。	<ul style="list-style-type: none"> ● ストーブ・置台などのほこりや汚れは、乾いたやわらかい布などできれいにふきとります。 ● シンナー・アルコール・ベンジンなどは使用しないでください。 	
1シーズンに2〜3回	ゴム製送油管	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴム製送油管にひび割れが生じていないか点検します。 ● ゴム製送油管は経年変化しますので3年に1度新しい物に交換してください。 ● 交換はお買い求めの販売店に依頼、又は最寄りの工場・支店・営業所にご相談ください。 	
	電源プラグ	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源プラグにほこりが付着していないか点検します。 	
給油のとき	油タンク	<ul style="list-style-type: none"> ● 油タンク内に水やごみがたまっていないか点検します。 ● 油タンク内の水抜き、ストレーナ（ろ網）の掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。 	

定期点検

本機器は使用される場所や条件、また使用時間により消耗・劣化する部品がありますので、修理資格者〔(一財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL.03-3499-2928)で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕による定期点検を受けてください。

定期点検の実施時期

2シーズン毎に1回程度定期点検を受けてください。

ただし、湿度の高いところ、ほこりの多いところ(例えば、厨房室や製綿工場など)、温泉地域などで使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますのでお買い求めの販売店にご相談ください。

定期点検

定期点検は専門の技術者が、設置状態、給排気まわりの点検・安全装置及び運転動作の点検・確認、使用時間により消耗劣化しやすい部品の点検などを行います。

安全にお使いいただくために製品の状態を点検診断するものですから必ず受けてください。

お申し込み先

お客さま→お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所。

定期点検費用

定期点検の費用についてはお買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所にご確認ください。定期点検の結果、部品交換及び修理などが必要な場合は、処置内容及び費用についてお客さまにご相談申し上げます。

定期点検の内容

定期点検の内容	項目
設置状態、給排気まわりの点検・確認	<ul style="list-style-type: none">● 製品の設置・使用状態● 給排気筒接続とつまり● 送油経路部の油漏れ(ゴム製送油管含む)● 給排気筒トップのつまり
安全装置及び運転動作の点検・確認	<ul style="list-style-type: none">● 安全装置の働き● 運転動作の点検● 操作部品や動く部品の働き
環境・使用時間により劣化しやすい部品の点検・交換	<ul style="list-style-type: none">● 点火ヒータなどの点検● 不完全燃焼防止装置(検知部)の点検● 給排気部品・排気管接続用Oリングなどの点検● バーナ・燃焼リングなどの点検● 各種送風機の点検● 各種パッキンの点検● ガラス点検(劣化の状態により交換の場合もあります。)
製品の清掃・整備	<ul style="list-style-type: none">● 本体内● 対流ガード・ファン● 対流フィルタ*● 油タンクの水抜き● 送油経路

※FFR-5511BL、FFR-4511BLには対流フィルタがありません。

設計上の標準使用期間について

設計上の使用期間の表示と説明

- 本製品は設計上の標準使用期間を8年と算定しており、適切な点検を行わず、この期間を超えて使用すると経年劣化による発火・けが等の事故の原因になるおそれがあります。
- 設計上の標準使用期間とは、製品ごとに設定した設計的に想定した標準的な使用（下記の〈設計標準使用期間の算定の根拠〉参照）による使用期間をいいます。
- 設計上の標準使用期間を過ぎての製品の使用については、経年劣化により安全性が損なわれ、ひいては重大事故に至るおそれがあります。そのため設計上の標準使用期間は、使用者が不具合なく製品を使用している場合でも点検・取替えの検討を開始するための目安（指針）とするものです。また、設計上の標準使用期間は、無償保障期間とは異なります。

設計上の標準使用期間の算定の根拠

本製品の設計上の標準使用期間は、製造年月を始期とし、日本産業規格JIS S 2073の「家庭用密閉燃焼式石油温風暖房機の標準使用条件、標準加速モード及び試験条件」に基づき右表の標準使用条件を想定し、当社において耐久試験等を行った結果算出された数値などに基づき経年劣化により安全上支障が生ずるおそれが著しく少ないことを確認した期間を終期として、設計上の標準使用期間を設定しています。

標準使用条件

項目	条件
1. 年使用時間	2,500時間
2. 換気回数	1回/h
3. 使用条件	—
・電源電圧/周波数	100V / 50Hz/60Hz
・暖房設定温度	22℃

標準的な使用条件と異なる使用をした場合の留意点

- 製品の使用条件又は使用頻度が、その根拠となった数値よりも高い場合
- 製品が目的以外の用途で使用された場合
- 標準的な使用環境と異なる環境で使用された場合
- 業務用（ホテル・喫茶店・理髪店・美容院・飲食店・事務所等）で使用した場合
- その他経年劣化を特に進める事情が存在する場合

上記のような使用をした場合は、設計上の標準使用期間よりも短期間で製品が経年劣化し、安全上支障が生じるおそれが多くなります。

清掃等の日常的に行うべき保守の内容とその方法

- 製品を安全にご利用いただくためには、お客様においても日常的に清掃や安全確認を行っていただくようお願いいたします。
- 点検・手入れは必ず消火後、電源プラグを抜き、製品が冷えてから行ってください。
- 点検・手入れの際は手袋などの保護具を着用してください。
- 部品の分解・整備は絶対にしないでください。
- 油漏れなどの異常がある場合は、販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
- 詳しくは日常の点検・手入れの項を参照してください。

設計上の標準使用期間について つづき

あんしん点検に関する事項

設計上の標準使用期間の8年になりましたらあんしん点検（有償）を受けてください。

- 点検料金について
 - ・ 点検費用はお客様にご負担いただくこととなります。
 - ・ 点検料金は技術料、出張料などを合計した金額となります。
- 各地域の点検などに関するお問い合わせは、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所で対応します。
- あんしん点検では、その時点での技術基準に適合しているかを確認するもので、その後の安全を担保するものではありません。また、あんしん点検は整備ではありません。
- あんしん点検の結果、整備・修理が必要となった場合は、別途整備・修理費用が発生します。
- あんしん点検後、整備に必要な部品は補修用性能部品とは異なることがあります。
- あんしん点検の結果、修理が必要となった場合は修理が完了するまで使用できません。

故障・異常の見分け方と処置方法

次のような場合は故障ではありません。

	現 象	原 因
点火時・消火時	初めて使用するときやシーズン始めに、煙やにおいが出る	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。異常ではありません。
	「ピチピチ」や「カンカン」という音がする	本体内部の加熱・冷却時に出る金属の膨張・収縮音です。異常ではありません。
	点火時に「ポン」という音がする	着火音で、異常ではありません。
	「カチン」という音がする	電磁弁の作動音で、異常ではありません。
燃焼時	青炎の中に赤火が混じる	異常ではありません。
	炎の一部が揺らぐ	異常ではありません。
	「カチカチ」という音がする	電磁ポンプの運転音で、異常ではありません。
その他	液晶表示部に、1分毎に『88』または『888』を1秒間隔で5回点滅表示する	点検時期お知らせ機能による点検時期のお知らせです。故障ではありません。(38～39ページ参照)
	ストーブが停止後に何も表示しなくなった	省電力表示中です。異常ではありません。(16ページ参照)

■不完全燃焼防止装置について

不完全燃焼防止装置(検知部)は、室内のガスを検知するセンサーです。センサーはストーブ本体以外の燃焼ガスにも影響を受けます。ストーブを設置している部屋が下記のようにないか確認してください。

- 炭火やガス炊飯器、コンロなど他の燃焼機器を室内で使用している。
- ストーブ周囲に部屋の換気口があるなど排気ガスが室外から流入している。

あてはまる場合は一旦使用を中止して十分に換気し、原因を取り除いてから使用してください。

異常が生じた場合は下表を参照して、お客さまご自身で処置してください。

現象 原因	運転ランプが点灯しない	点火しない	炎が立上がる	液晶表示部に表示された チェックモード						処置	参照ページ
				E- 00	(※1) E- 03 E- 05 E- 33 E- 35	E- 〔〔 E- 60 〔〔〔〔 (点滅)	E- 02	E- 07	E- 19		
電源プラグがコンセントから抜けている	●									電源プラグをコンセントに確実に差し込む	15
油タンクに灯油がない		●			●					油タンクに給油する	14
停電があった (FF-4211TL(U)を除く)				●						運転スイッチを押しなおす	30
油タンクの送油バルブが閉じている		●			●					送油バルブを開く	30
定油面器の安全装置が作動している		●			●					リセットボタンを押す	15 30
対流フィルタや対流ガードにほこりがたまっている(※2)								●		掃除する	30 33
対流フィルタや対流ガードがカーテンでふさがっている								●		カーテンを取り除く	30
給排気筒トップの先端がふさがれている			●			●				給排気筒トップ先端のしゃ閉物を取り除く	32
地震や強い衝撃があった								●		ストーブ周囲、油漏れ、給排気筒を点検する	30 32
排気管が抜けている									●	確実に接続する	30 31
緊急停止スイッチが押された(※3)								●		運転スイッチを押しなおす(※4)	-

※1 [E-33] [E-35] はFF-4211TL(U)のみ表示されない ※2 FFR-5511BL、FFR-4511BLには対流フィルタがありません

※3 カギ付操作パネル取付の場合 ※4 FF-4211TL(U)はリセットボタンを押す

以上の方法で点検し、処置してもなおらないときは、使用を中止しお買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご相談ください。

修理をお申しつけのときには故障内容をできるだけ詳しく、また表示部に表示されるチェックモードをご連絡ください。

下記のチェックモードは点検時期お知らせ機能の表示です。故障ではありません。

チェックモード	原因	処置
1分毎に『88』または『888』を1秒間隔で5回点滅表示	点検時期になった (設計標準使用期間経過)	39 ページを参照して、点検(有料)を受けてください。

点検時期お知らせ機能について

- 本製品には、点検時期お知らせ機能が搭載されております。
- ストーブの使用時間が設計標準使用期間の8年相当を経過しますと表示部に『**88**』を表示（1分ごとに5回点滅）して、点検時期をお知らせします。
- 故障ではありませんので使用できますが、あんしん点検(有料)を受けてください。
- 点検に関するお問い合わせは、最寄りの工場・支店・営業所にご連絡ください。点検の案内をさせていただきます。
- あんしん点検を受けてから3年相当の使用期間が経過しますと、表示部に『**888**』を表示（1分ごとに5回点滅表示）して点検時期を再度お知らせします。

点検時期お知らせ機能の表示・再告知表示のユーザーリセット方法

- 点検時期お知らせ機能の表示・再告知表示は、下記の操作方法で一時的に表示しないようにできます。
- ①省電力表示に入っている場合は、運転スイッチ以外のいずれかのボタンを一度押して、表示部を表示させてください。
- ②運転スイッチが「切」の状態です室温/時刻調節ボタン（(U)タイプは室温調節ボタン）の「▲」を10秒以上押し続けてください。
- ③表示部に『**88 - -**』を2秒間表示し、運転スイッチ「切」時の通常表示に切り換ります。（ユーザーリセット完了）



※上記の操作を行ってから1年相当の使用期間が経過しますと、再び表示部に『**88**』を表示して点検時期を再度お知らせします。
あんしん点検(有料)を受けてください。



チェックモード表示部

チェックモードに下記のような表示が出たときは、運転スイッチを「切」にし、ストーブが冷えてから下記の処置をしてください。

チェックモード	原因	処置の方法
E-09	点火不良(E-03、E-33)が2回連続して発生した。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-11	炎有り検知した。 (フレームロッドの短絡)	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-12	運転中にバーナサーミスタが断線した。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-13	運転中にバーナサーミスタの温度が低下した。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-15	運転中に室温サーミスタが断線した。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。(修理までの間、手動運転でストーブ運転は可能です。その間は現在温度表示部に「—」が表示されます。)
E-18	燃焼用送風機が動作しなくなった。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-25	バーナサーミスタが短絡した。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-31 (FF-421 1TL(U)のみ)	集中制御装置と通信できなかった。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-32 (FF-421 1TL(U)のみ表示されない)	点火前にポット内が異常高温だった。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-57	不燃防(検知部)が故障した。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。
E-58	不燃防(検知部)が断線した。	お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。

故障・異常の見分け方と処置方法 つづき

■ 現在温度表示部に以下の表示が出たときは、それぞれの項を参照して処置をしてください。

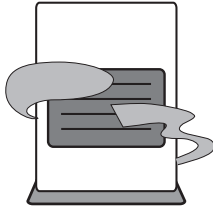
- 「00」 (点滅) …24ページを参照してください。
- 「--」 …『E-15』 (40ページ) を参照してください。

このような現象のときは使用を中止し、
油タンクの送油バルブを閉じて販売店にご連絡ください

- 使用される場所や条件又は長期間の使用により、下記のような現象が見られる場合には使用を中止して、必ずお買い求めの販売店に修理依頼、又は最寄りの工場・支店・営業所へご相談ください。

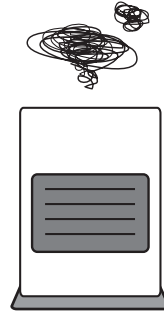
排ガスのおいがしたり、目がチカチカする

- 排ガスが漏れているおそれがあります。
排ガスが室内に漏れていると、危険です。



黒煙を出して燃える

- 燃焼が異常になっています。



点火・燃焼・消火するときに「ボン」という大きな音がした

- ストーブが損傷したり、パッキンが飛散しているおそれがあります。



置台に油が漏れている

- 送油配管より油が漏れています。



部品交換のしかた

- 経年により消耗、劣化しやすい部品があります。
- 異常かなと思われましたら、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所にお問い合わせください。個人での不完全な修理は危険です。
- 修理資格者〔(一財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などが修理いたします。

消耗、劣化しやすい部品

項目	内容
使用時間により交換が必要な部品	点火ヒータ・排気管接続用Oリング(JIS B2401 4種D P40) 燃焼リング・各種パッキン・ガラス・不完全燃焼防止装置(検知部)
環境により劣化しやすい部品	給排気筒系部品・制御基板・燃焼用送風機 対流用送風機・ゴム製送油管
不良灯油を使用されて劣化しやすい部品	電磁ポンプ・定油面器・電磁弁

不完全燃焼防止装置(検知部)

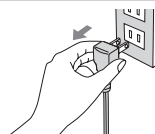
- 不完全燃焼防止装置の検知部は、有効期限までに交換が必要になります。有効期限を過ぎると検知部の感度が鈍くなり、不完全燃焼防止装置が正常に作動しないおそれがあります。不完全燃焼防止装置(検知部)の有効期限は機器右側面に表示されています。(49ページ参照)なお、不完全燃焼防止装置(検知部)の交換は有料です。

保管(長期間使用しない場合)

- 長期間使用しないとき(シーズン終了時)は、次の要領でお手入れしてください。

1 電源プラグをコンセントから抜く

- ぬれた手で触らないでください。
感電のおそれがあります。



2 ストープ外装、対流ガードの掃除をする

(33ページ参照)

3 油タンクの送油バルブを閉じる

4 ストープは据付けたまま保管する

- どうしても取り外して保管するときは、湿気やほこりの少ないところに保管してください。
- 次シーズンに据付けるときには、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

仕様

型式の呼び	FF-5211TL	
種類	ポット式、強制給排気形、強制対流形	
点火方式	電気点火	
使用燃料	灯油(JIS1号灯油)	
燃焼状態	最大	最小
燃料消費量	6.00kW(0.583L/h)	1.72kW(0.167L/h)
発熱量	21,590kJ/h	6,190kJ/h
熱効率	87.0%	85.0%
暖房出力	5.22kW	1.46kW
外形寸法	高さ600mm 幅490mm 奥行307mm(置台を含む)	
質量	21kg	
電源電圧及び周波数	100V 50/60Hz	
定格消費電力	最大(点火初期に短時間発生)630/630W 点火時320/320W、燃焼時40/40W	
待機時消費電力	0.6/0.6W	
給排気筒の型式の呼び	FWT-6W-1	
給排気筒の呼び径	D40	
給排気筒の壁貫通部の孔径	67~80mm	
排気温度	260℃以下	
電流ヒューズ	筒形20mm 10A	
安全装置	対震自動消火装置、停電安全装置、過熱防止装置 点火安全装置、燃焼制御装置、不完全燃焼防止装置	
その他の装置	排気管抜け検知装置	
付属品	壁固定金具(2)、延長用短管(1)、ワイヤーバンド大(1)、 ワイヤーバンド小(2)、ゴム製送油管(1.2m)(1)、給排気筒セット(1)、 排気管断熱カバー(1)、ストッパーリング(2)、4×25タッピンねじ(5)、 取扱説明書(1)、工事説明書(1)	

型 式 の 呼 び	FF-4211TL / FF-4211TL(U)	
種 類	ポット式、強制給排気形、強制対流形	
点 火 方 式	電気点火	
使 用 燃 料	灯油(JIS1号灯油)	
燃 焼 状 態	最 大	最 小
燃 料 消 費 量	4.86kW(0.472L/h)	1.54kW(0.15L/h)
発 熱 量	17,710kJ/h	4,820kJ/h
熱 効 率	87.0%	86.0%
暖 房 出 力	4.23kW	1.33kW
外 形 寸 法	高さ600mm 幅440mm 奥行303mm(置台を含む)	
質 量	17kg	
電 源 電 圧 及 び 周 波 数	100V 50/60Hz	
定 格 消 費 電 力	最大(点火初期に短時間発生)640/640W 点火時340/340W、燃焼時36/34W	
待 機 時 消 費 電 力	0.6/0.6W	
給 排 気 筒 の 型 式 の 呼 び	FWT-6W-1	
給 排 気 筒 の 呼 び 径	D40	
給 排 気 筒 の 壁 貫 通 部 の 孔 径	67~80mm	
排 気 温 度	260℃以下	
電 流 ヒ ュ ー ズ	筒形20mm 10A	
安 全 装 置	対震自動消火装置、停電安全装置、過熱防止装置 点火安全装置、燃焼制御装置、不完全燃焼防止装置	
そ の 他 の 装 置	排気管抜け検知装置	
附 属 品 (※印はFF-4211TL(U)では別梱包・別売)	壁固定金具(2)、ワイヤーバンド大(1)、ワイヤーバンド小(2)、 ゴム製送油管(1.2m)(1)、排気管断熱カバー(1)、ストッパーリング(1)、 4×25タッピンねじ(2)、取扱説明書(1)、工事説明書(1) ※給排気筒セット(1)	

仕様 つづき

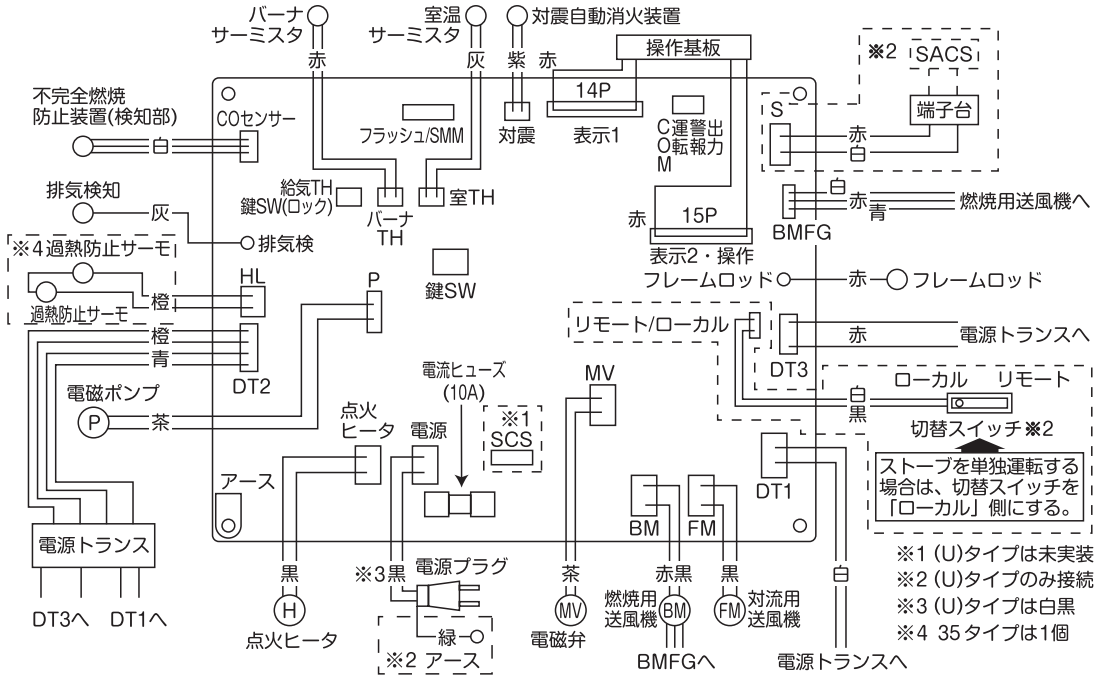
型式の呼び	FF-3511TL	
種類	ポット式、強制給排気形、強制対流形	
点火方式	電気点火	
使用燃料	灯油(JIS1号灯油)	
燃焼状態	最大	最小
燃料消費量	4.01kW(0.39L/h)	1.34kW(0.13L/h)
発熱量	14,440kJ/h	4,820kJ/h
熱効率	87.0%	87.0%
暖房出力	3.49kW	1.16kW
外形寸法	高さ600mm 幅440mm 奥行303mm(置台を含む)	
質量	17kg	
電源電圧及び周波数	100V 50/60Hz	
定格消費電力	最大(点火初期に短時間発生)640/640W 点火時335/330W、燃焼時34/32W	
待機時消費電力	0.6/0.6W	
給排気筒の型式の呼び	FWT-6W-1	
給排気筒の呼び径	D40	
給排気筒の壁貫通部の孔径	67~80mm	
排気温度	260℃以下	
電流ヒューズ	筒形20mm 10A	
安全装置	対震自動消火装置、停電安全装置、過熱防止装置 点火安全装置、燃焼制御装置、不完全燃焼防止装置	
その他の装置	排気管抜け検知装置	
付属品	壁固定金具(2)、ワイヤーバンド大(1)、ワイヤーバンド小(2)、 ゴム製送油管(1.2m)(1)、排気管断熱カバー(1)、ストッパーリング(1)、 4×25タッピンねじ(2)、取扱説明書(1)、工事説明書(1)、 給排気筒セット(1)	

型 式 の 呼 び	FFR-5511BL	
種 類	ポット式、強制給排気形、強制対流形	
点 火 方 式	電気点火	
使 用 燃 料	灯油(JIS1号灯油)	
燃 焼 状 態	最 大	最 小
燃 料 消 費 量	6.36kW(0.618L/h)	1.85kW(0.180L/h)
発 熱 量	22,890kJ/h	6,670kJ/h
熱 効 率	86.0%	86.0%
暖 房 出 力	5.47kW	1.59kW
外 形 寸 法	高さ600mm 幅490mm 奥行317mm(置台を含む)	
質 量	21kg	
電 源 電 圧 及 び 周 波 数	100V 50/60Hz	
定 格 消 費 電 力	最大(点火初期に短時間発生)660/660W 点火時330/330W、燃焼時39/39W	
待 機 時 消 費 電 力	0.6/0.6W	
給 排 気 筒 の 型 式 の 呼 び	FWT-6W-1	
給 排 気 筒 の 呼 び 径	D40	
給 排 気 筒 の 壁 貫 通 部 の 孔 径	67~80mm	
排 気 温 度	260℃以下	
電 流 ヒ ュ ー ズ	筒形20mm 10A	
安 全 装 置	対震自動消火装置、停電安全装置、過熱防止装置 点火安全装置、燃焼制御装置、不完全燃焼防止装置	
そ の 他 の 装 置	排気管抜け検知装置	
附 属 品	壁固定金具(2)、ワイヤーバンド大(1)、ワイヤーバンド小(2)、 ゴム製送油管(1.2m)(1)、給排気筒セット(1)、排気管断熱カバー(1)、 ストッパーリング(1)、4×25タッピンねじ(5)、取扱説明書(1)、 工事説明書(1)	

仕様 つづき

型式の呼び	FFR-4511BL	
種類	ポット式、強制給排気形、強制対流形	
点火方式	電気点火	
使用燃料	灯油(JIS1号灯油)	
燃焼状態	最大	最小
燃料消費量	5.22kW(0.507L/h)	1.75kW(0.170L/h)
発熱量	18,780kJ/h	6,300kJ/h
熱効率	86.0%	86.0%
暖房出力	4.49kW	1.50kW
外形寸法	高さ600mm 幅490mm 奥行317mm(置台を含む)	
質量	21kg	
電源電圧及び周波数	100V 50/60Hz	
定格消費電力	最大(点火初期に短時間発生)660/660W 点火時330/330W、燃焼時37/37W	
待機時消費電力	0.6/0.6W	
給排気筒の型式の呼び	FWT-6W-1	
給排気筒の呼び径	D40	
給排気筒の壁貫通部の孔径	67~80mm	
排気温度	260℃以下	
電流ヒューズ	筒形20mm 10A	
安全装置	対震自動消火装置、停電安全装置、過熱防止装置 点火安全装置、燃焼制御装置、不完全燃焼防止装置	
その他の装置	排気管抜け検知装置	
付属品	壁固定金具(2)、ワイヤーバンド大(1)、ワイヤーバンド小(2)、 ゴム製送油管(1.2m)(1)、給排気筒セット(1)、排気管断熱カバー(1)、 ストッパーリング(1)、4×25タッピンねじ(5)、取扱説明書(1)、 工事説明書(1)	

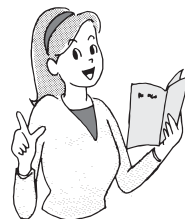
配線図



アフターサービス

■保証について

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのもと、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

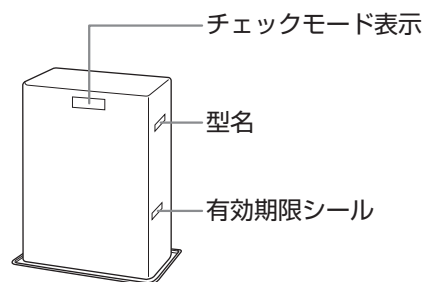


■修理を依頼するときについて

「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って点検してください。処置してもなおらないときは、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へご連絡ください。

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理いたします。

ご連絡していただきたい内容	
ご住所	
お名前	
電話番号	
製品名	密閉式石油ストーブ
型名	FF-5211TL/FF-4211TL FF-4211TL(U)/FF-3511TL FFR-5511BL/FFR-4511BL
お買い上げ日	年 月 日
故障又は異常の内容	できるだけ詳しく（表示部のチェックモード数字など）お知らせください。
訪問ご希望日	



- 保証期間が過ぎているときは、販売店にご相談ください。修理によって使用できる場合は、ご希望により有料修理いたします。
- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い求めの販売店又は最寄りの工場・支店・営業所へお問い合わせください。

■補修用性能部品について

- 密閉式石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後10年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

据付け・移設

据付け・移設工事は販売店に依頼する

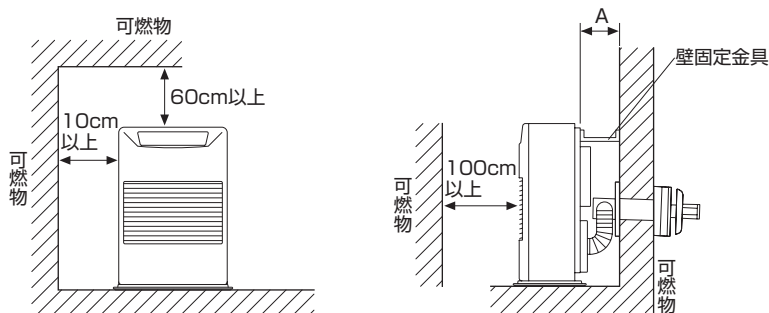
据付けや移設工事は販売店又は据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

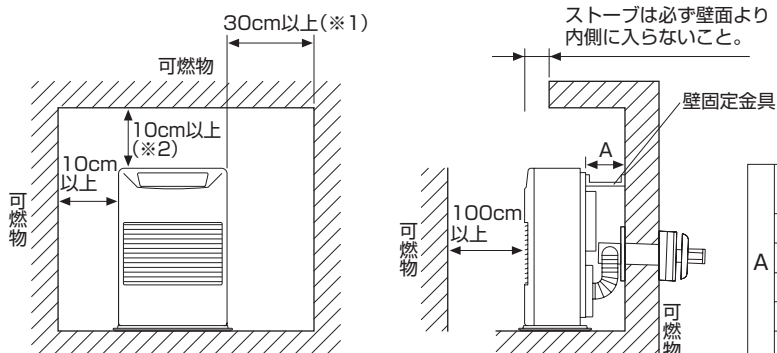
据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり販売店又は据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

【ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離】

- ストーブ右側面と壁面は保守点検のため30cm以上離してください。



- マントルピースなどストーブが囲われる場所に設置する場合
(ストーブは必ず壁面より内側に入らないこと。)



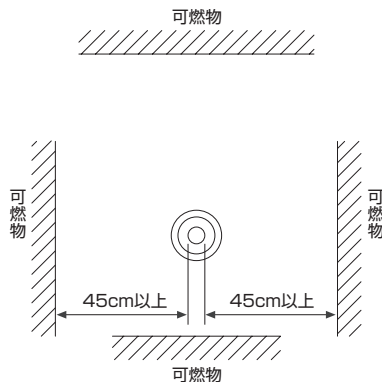
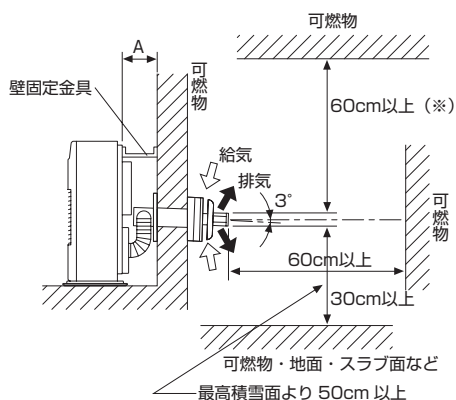
- ※1 保守点検のため30cm以上離してください。
- ※2 防火性能認証品ですので、この寸法で設置できます。

A	FF-5211TL	10cm以上
	FF-4211TL	13cm以上
	FF-4211TL(U)	
	FF-3511TL	
	FFR-5511BL	15cm以上
	FFR-4511BL	



- マントルピースなどストーブが囲われる場所に設置する場合の内部やその周辺は、できるだけ不燃材料又は準不燃材料あるいは防熱板で仕上げを行ってください。
- 上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離としてください。

【給排気筒トップから周囲の可燃物までの離隔距離】



注(※) 60cm以上の寸法は、不燃材を使用する場合は30cm以上とする。

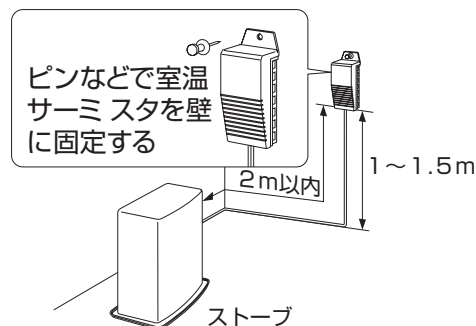
A	FF-5211TL	10cm以上
	FF-4211TL	13cm以上
	FF-4211TL(U)	
	FF-3511TL	
	FFR-5511BL	15cm以上
	FFR-4511BL	

- 給排気筒トップは上方及び両側に気流を阻止する障害物がないこと。
- 雪の多い地方では、最高積雪面より50cm以上離れる場所に、給排気筒を取り付けてください。
- 不燃物の場合でも性能維持のため、上図離隔距離としてください(※部は除く)。

■室温サーミスタの取り付け

室温サーミスタを壁面に固定してください。

- 室温サーミスタをストーブより外し、部屋の温度を代表できる壁面にピンなどで固定してください。ストーブに取り付けたままですと、正しく室温調節しません。室温サーミスタのリード線の長さは約2.5mです。その範囲内で取り付けてください。室温サーミスタは直射日光やふく射熱が当たるところには取り付けしないでください。正しく室温調節しません。



■給気管・排気管を延長する場合の注意

給気管・排気管を延長する場合は、3m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。

- FF-5211TLで給気管・排気管を延長する場合は、附属の延長用短管を取り付けてください。(この場合、ストーブと壁面との離隔距離は15cmになります。)

■積雪地区における注意

積雪の多い地方では、積雪時に給排気筒が雪でふさがれないような取付場所を選定してください。また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

■据付け後の確認

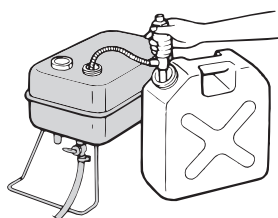
- 据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

試運転

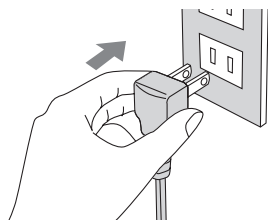
試運転は、販売店又は据付業者とご一緒に必ず行ってください。

運転準備

1 油タンクに給油する (14ページ参照)

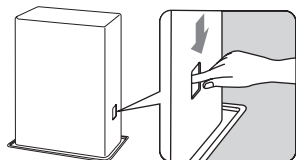


2 電源プラグをコンセントに差し込む



3 定油面器のリセットボタンを押す (15ページ参照)

- ゴム製送油管内に空気がたまっていることがありますので、ゴム製送油管を振って空気を抜いてください。



確認

- 油タンクや送油管・ゴム製送油管から油漏れがないか。
- 置台の上などに油がこぼれていないか。

設定

1 高地・延長設定

- 延長配管部材を使用する場合や標高1000m以上の高地で使用する場合は、燃焼用送風機の回転数を補正する必要があります。以下の手順と表を参考にして設定してください。(設定は操作部で行います。)
- 設定方法(カッコ内は(U)タイプの場合)
 - ① 電源プラグをコンセントに差し込んでください。(運転中は設定できません。)
 - ② 室温/時刻調節ボタン(室温調節ボタン)の「▲」とecoボタンを10秒以上同時に押してください。
 - ③ 液晶表示部の表示が「H*E*」(*は設定値)へ切り替わります。
※出荷時の設定は「HOEO」。
 - ④ 「H*E*」の状態から「▲」を押すごとに「EO」⇒「E1」⇒「E2」
「▼」を押すごとに「HO」⇒「H1」と切り替わります。
 - ⑤ 設定したい内容を表示させて設定切換ボタン(リセットボタン)を押し、通常表示に戻せば設定完了です。
※「H」:高地設定、「E」:延長設定
「O」:未設定、「1」「2」:設定を表します。

FF-5211TL・FF-4211TL・FF-4211TL(U)・
FFR-5511BL・FFR-4511BL
標高:0~1000m未満

延長 \ 曲がり	1 曲	2 曲	3 曲
1 m	A	A	B
2 m	A	B	B
3 m	A	B	B

Aの場合:「HOEO」 Bの場合:「HOE1」

標高:1000~1500m

延長 \ 曲がり	1 曲	2 曲	3 曲
1 m	C	C	D
2 m	C	D	D
3 m	C	D	D

Cの場合:「H1EO」 Dの場合:「H1E1」

据付け・移設 つづき

FF-3511TL

標高:0~1000m未満

延長 \ 曲がり	1 曲	2 曲	3 曲
1 m	A	A	C
2 m	A	B	C
3 m	A	B	C

Aの場合:『HOE0』

Bの場合:『HOE1』

Cの場合:『HOE2』

標高:1000~1500m

延長 \ 曲がり	1 曲	2 曲	3 曲
1 m	D	D	F
2 m	D	E	F
3 m	D	E	F


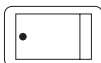
Dの場合:『H1E0』

Eの場合:『H1E1』

Fの場合:『H1E2』

2 切替スイッチの確認

FF-4211TL(U)の場合

- SACSに接続した  ローカル  リモート ストープを単独運転させたい場合は、後面の切替スイッチを「ローカル」側に切替えて、通常の運転操作を行ってください。

3 アドレス設定

FF-4211TL(U)の場合

- ①電源プラグをコンセントに差し込んでください。(運転中は設定できません。)
- ②室温調節ボタンの「▼」と「▲」を3秒以上同時に押してください。
- ③液晶表示部の表示が『Ad**』(**はアドレス)へ切り替わります。
※出荷時のアドレスは『00』。
- ④室温調節ボタンの「▲」を押すとアドレスが加算され(最大『1F』)、「▼」を押すと減算されます。
- ⑤設定したいアドレスを表示させてリセットボタンを押し、温度表示に戻せば設定完了です。

運転

- 1 運転スイッチを押して、「入」にする
 - 運転ランプと表示部のバックライトが点灯します。
 - 約100秒~4分間予熱後、着火します。予熱後対流用ファンが回り、約6分間予備燃焼を行います。
 - ゴム製送油管内に空気がたまっていることがありますので、運転スイッチを「入」にしてから、ゴム製送油管を振って空気を抜いてください。

消火

- 1 運転スイッチを再度押して、「切」にする
 - 運転ランプが消灯します。(10秒後表示部のバックライトが消灯します。)
 - 対流用ファンはストーブが冷えるまでの約8分間回り続けます。

2 油タンク送油バルブを閉じる



正常運転の目安

- 正常運転の目安として41ページのような現象がないことを確認します。



- ストーブより煙やにおいが出ることがありますが、燃焼室の塗装やパッキン類が焼けるためで異常ではありません。最大燃焼で数十分運転すると消えますので、部屋の換気をしながら試運転してください。

MEMO

MEMO

保証書(販売店様控)

型名	FF-5211TL/FF-4211TL/FF-4211TL(U) FF-3511TL/FFR-5511BL/FFR-4511BL		
★製造番号	No.	保証期間	1 年
★お買い上げ日	年 月 日	★販売店	住所・店名
★お客様	お名前 様		電話 ()
	ご住所		
	電話 ()		

★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずお確かめください。

-販売店様へお願い-

- (1)保証書(販売店様控)及び次のページの保証書(お客様控)の★印欄に必ず必要事項をご記入の上、保証書(販売店様控)は切り取り線より切り取って保管し、次のページの保証書(お客様控)は本取扱説明書とともにお客様にお渡しください。
※カーボン紙を差し込んで次のページに複写してください。
- (2)保証書(販売店様控)に記載したお客様の個人情報、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のため以外には使用しないでください。

修理メモ

修理メモ

保証書(お客様控)

本書は当製品に故障が発生した場合、お買い上げ日より表記期間中、本書記載内容に従って無料修理をお約束するものです。修理を依頼される場合は、お買い求めの販売店に必ず本書をご提示ください。

型名	FF-5211TL/FF-4211TL/FF-4211TL(U) FF-3511TL/FFR-5511BL/FFR-4511BL		
★製造番号	No.	保証期間	1年
★お買い上げ日	年 月 日	★販売店	住所・店名
★お客様	お名前 様		電話 ()
	ご住所		
	電話 ()		

★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずお確かめください。

〈無料修理規定〉

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、当製品を無料で修理致します。お買い求めの販売店にご相談ください。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、お買い求めの販売店にご依頼の上、出張修理に際して本書をご提示ください。なお、離島及び離島に準ずる遠隔地へのお出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
- ご転居の場合は事前にお買い求めの販売店にご相談ください。
- ご贈答品等で本書に記入してあるお買い求めの販売店に修理がご依頼できない場合には、裏表紙記載のフリーダイヤルへご相談ください。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- 本書の提示がない場合、または必要事項の記載がない場合、字句を書き換えられた場合は有料修理になります。

●次の場合は保証期間内でも有料修理になります。

- (1) 住宅用途以外で使用した場合の不具合
- (2) 使用者が適切な使用、維持管理等を行わなかったことに起因する不具合
- (3) 一般家庭用以外に使用したことに起因する不具合
- (4) 専門業者以外による修理、改造等に起因する不具合
- (5) 弊社が定める工事説明書等に基づかない施工、専門業者以外による移動・分解等に起因する不具合
- (6) 建築躯体の変形等、住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせ等の経年変化、または使用に伴う摩耗等により生じる外観上の現象
- (7) 海岸付近、温泉地等の地域における腐食性の空気環境に起因する不具合
- (8) 動物や昆虫等の行為、及び植物の侵入等に起因する不具合
- (9) 火災・爆発・凍結等の事故、台風・落雷・地震・噴火・洪水・津波等の天変地異、または戦争・暴動等の破壊行為による不具合
- (10) 消耗部品の消耗に起因する不具合
- (11) 公害による不具合
- (12) 電気・燃料等の供給トラブル等に起因する不具合
- (13) 指定規格以外の電気・燃料を使用したことに起因する不具合

修理メモ

●お客様へ

- この保証書は本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って、この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- 保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い求めの販売店、または裏表紙記載のフリーダイヤルにお問い合わせください。
- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

お買い上げ日	年 月 日
販売店名	
	電話番号


●記入しておくことで修理などの依頼のときに便利です。

<p>一般のお客様から のお問い合わせは、 フリーダイヤルへ</p>	 0120-925-339 携帯電話からは 0570-666-339 (通話料金がかかります)
--	--

お客様から取得いたしました個人情報
は、お客様へのお問い合わせ対応を目的
として利用し、適切に管理します。
修理業務等を委託する場合や正当な理由
がある場合を除き、第三者に開示・
提供いたしません。

※電話番号をよくお確かめのうえ、おかけ間違いのないようにお願いします。

<p>修理に関する お問い合わせ</p>	<p>24時間365日受付</p>	<p>商品に関する お問い合わせ</p>	<p>平日 8:00~18:30 土日祝 8:00~17:00</p>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	---

<p>愛情点検</p> 	<p>長年ご使用の石油暖房機の点検を！</p>	
	<p>こんな症状は ありませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●油漏れがある。 ●煙が出たり、強い臭いがする。 ●運転中にこげくさい臭いがする。 ●異常な音や振動がする。 ●その他の異常や故障がある。 	<p>ご使用中止</p> <p>故障や事故防止のため、コンセント から電源プラグを抜いて、必ず販売 店に点検・修理を依頼してください。</p>

住宅設備機器総合メーカー
株式会社 長府製作所



本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1